

(様式第 10)

和 医 大 経 2 1 5 号
平成 2 6 年 1 0 月 2 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 公立大学法人和歌山県立医科大学 (印)

和歌山県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 6 4 1 - 8 5 0 9 和歌山市紀三井寺 8 1 1 番地 1
氏 名	公立大学法人和歌山県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

和歌山県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒 6 4 1 - 8 5 1 0 和歌山市紀三井寺 8 1 1 番地 1	電話 (0 7 3) 4 4 1 - 2 3 0 0
---------------------------------------	------------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☒ ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
☐ ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	☒ 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 糖尿病・内分泌・代謝内科 2 消化器内科 3 呼吸器内科・アレルギー内科 4 循環器内科	
5 神経内科 6 腎臓内科（人工透析） 7 血液内科 8 9 10	
11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	☒ 有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1 心臓血管外科	2 呼吸器外科・乳腺外科
3 消化器・内分泌・小児外科	4
5	6
7	8
9	10
11	12
13	14
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

☒ 1精神科	☒ 2小児科	☒ 3整形外科	☒ 4脳神経外科	☒ 5皮膚科	☒ 6泌尿器科	☒ 7産婦人科
8産科	9婦人科	☒ 10眼科	☒ 11耳鼻咽喉科	☒ 12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		☒ 15麻酔科	☒ 16救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☒ 有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 歯科口腔外科	2
3	4
5	6
7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 病理診断科	3 神経精神科	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21				

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
40床	床	床	床	760床	800床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	380人	52人	386.5人	看 護 補 助 者	74人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	9人	3人	9.6人	理 学 療 法 士	13人	臨床検査技師	40人
薬 剤 師	29人	0人	29人	作 業 療 法 士	6人	衛生検査技師	0人
保 健 師	1人	0人	1人	視 能 訓 練 士	3人	そ の 他	0人
助 産 師	38人	0人	38人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	697人	21人	715.3人	臨床工学技士	9人	医療社会事業従事者	6人
准 看 護 師	8人	3人	10.6人	栄 養 士	0人	その他の技術員	13人
歯科衛生士	1人	3人	4人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	155人
管理栄養士	6人	2人	8人	診療放射線技師	37人	そ の 他 の 職 員	9人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	11 人	眼 科 専 門 医	9 人
外 科 専 門 医	44 人	耳鼻咽喉科専門医	8 人
精 神 科 専 門 医	6 人	放射線科専門医	12 人
小 児 科 専 門 医	19 人	脳神経外科専門医	16 人
皮 膚 科 専 門 医	23 人	整形外科専門医	17 人
泌尿器科専門医	7 人	麻 酔 科 専 門 医	21 人
産婦人科専門医	9 人	救 急 科 専 門 医	10 人
		合 計	212 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	627.6人	8.4人	636.1人
1 日当たり平均外来患者数	937.7人	60.6人	998.3人
1 日当たり平均調剤数	865.6剤		
必要医師数	126人		
必要歯科医師数	6人		
必要薬剤師数	22人		
必要（准）看護師数	354人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要
集中治療室	417m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート造	病床数 10床
			心電計 (有)・無
			心細動除去装置 (有)・無
			ペースメーカー (有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 339m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数 3床
医薬品 情報管理室	[専用室の場合] 床面積 40m ² [共用室の場合] 共用する室名		
化学検査室	903m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート造	(主な設備) 検体前処理装置、臨床化学測定装置、免疫測定装置、遺伝子解析システム、血液ガス分析装置、血球分析装置、血液凝固線溶測定装置、等
細菌検査室	90m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート造	(主な設備) 細菌同定・感受性装置、血液培養検査装置、抗酸菌培養検査システム、抗酸菌遺伝子解析システム、ドラフトチャンバー、ふ卵器、蒸気滅菌器、等
病理検査室	191m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート造	(主な設備) 臓器切出し用ドラフトチャンバー、臓器包埋脱水装置、パラフィンブロック作成装置、薄切装置、染色機、顕微鏡、等
病理解剖室	260m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート造	(主な設備) 解剖台、臓器標本撮影装置、遺体冷蔵庫、標本保管庫、等
研究室	15,458m ²	鉄骨造	(主な設備) デジタル顕微鏡システム、蛍光顕微鏡システム、細胞イメージ解析装置、セルソーター等
講義室	546m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート造	室数 2 室 収容定員 260 人
図書室	2,216m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート造	室数 9 室 蔵書数 110,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	61.3%	逆紹介率	55.0%
算出根拠	A: 紹介患者の数		15,234人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16,295人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,921人
	D: 初診の患者の数		29,624人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
該当なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	30人	・膿疱性乾癬	74人
・多発性硬化症	43人	・広範脊柱管狭窄症	9人
・重症筋無力症	54人	・原発性胆汁性肝硬変	58人
・全身性エリテマトーデス	171人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	19人
・再生不良性貧血	23人	・混合性結合組織病	20人
・サルコイドーシス	76人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	34人	・特発性間質性肺炎	10人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	145人	・網膜色素変性症	17人
・特発性血小板減少性紫斑病	57人	・プリオン病	3人
・結節性動脈周囲炎	13人	・肺動脈性肺高血圧症	13人
・潰瘍性大腸炎	139人	・神経線維腫症	41人
・大動脈炎症候群	21人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	14人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	32人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	32人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	79人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	8人	・脊髄性筋委縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	578人	・球脊髄性筋委縮症	3人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	26人
・後縦靱帯骨化症	186人	・肥大型心筋症	52人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	14人	・ミトコンドリア病	19人
・ウェゲナー肉芽腫症	4人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	10人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	3人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	20人	・黄色靱帯骨化症	54人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	91人

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施 設 基 準 等 の 種 類	施 設 基 準 等 の 種 類
・ 該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	2回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 23 例 / 剖部検率 5.10%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

(単位:千円)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
生体イメージング可視化技術を用いた県特産果実由来機能性素材の探索と生理機能の検証	井原 勇人	RI実験施設	528	補委 科学技術振興機構
オンコスタチンM受容体を分子標的としたアトピー性皮膚炎治療薬の開発	森川 吉博	解剖学第二	3,498	補委 科学技術振興機構
ニコチン拮抗細胞機能に及ぼす影響	赤水 尚史	内科学第一	2,000	補委 喫煙科学研究財団
甲状腺クリーゼの予後に関する前向き調査と治療法の改善	赤水 尚史	内科学第一	900	補委 聖ルカ・ライフサイエンス研究所
成長ホルモン分泌促進物質グレリンと血糖調節ホルモン(インスリン/グルカゴン)とのクロストークに関する検討	赤水 尚史	内科学第一	500	補委 成長科学協会
後天的グレリン分泌低下マウスを用いた循環血中グレリンの摂食・エネルギー代謝における役割の検討	有安 宏之	内科学第一	550	補委 日本応用酵素協会
摂食調節における遊離脂肪酸の役割に関する基礎的検討	有安 宏之	内科学第一	1,950	補委 日本学術振興会
バセドウ病に対する抗原特異的治療法の研究	稲葉 秀文	内科学第一	1,000	補委 山口内分泌疾患研究振興財団
エキソーム解析によるMODYの原因遺伝子解明	古田 浩人	内科学第一	1,560	補委 日本学術振興会
Helicobacter pylori関連慢性胃炎の進展に及ぼす喫煙の影響の検討	一瀬 雅夫	内科学第二	2,000	補委 喫煙科学研究財団
胃切除後骨障害の病態解明と治療胃一肝臓一骨連関からのアプローチ	上田 和樹	内科学第二	910	補委 日本学術振興会
胃酸分泌低下の腸内細菌叢への影響と腸管疾患との関連	加藤 順	内科学第二	2,340	補委 日本学術振興会
エピジェネティクスを利用した新規胃癌リスクマーカーの開発	前北 隆雄	内科学第二	1,430	補委 日本学術振興会
好酸球性肺炎における室素化ストレス及び新たな炎症性メディエーターの解明	赤松 啓一郎	内科学第三	1,820	補委 日本学術振興会
喘息と鼻副鼻腔炎:炎症制御因子を介した病態生理学的関連性の解明	岡 亜早子	内科学第三	1,430	補委 日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患における27-hydroxycholesterolの役割の解明	菊池 崇史	内科学第三	1,170	補委 日本学術振興会
難治性喘息におけるTNF α と室素化ストレスのクロストークと制御機構の研究	平野 綱彦	内科学第三	1,300	補委 日本学術振興会
COPD患者の予後改善に向けた新しい個別化治療ストラテジーの構築	南方 良章	内科学第三	1,690	補委 日本学術振興会
進展型小細胞肺癌に対する予防的全身照射の実施の有無を比較するランダム化比較第Ⅲ相試験	山本 信之	内科学第三	20,000	補委 厚生労働省
胸部悪性腫瘍における分子生物学的診断の試みと新規バイオマーカーの探索研究	山本 信之	内科学第三	779	補委 日本学術振興会

小計

20

冠動脈プラーク破裂後の血栓形成における単球サブセットの関与と治療法の確立	今西 敏雄	循環器内科学	1,430	(補委)	日本学術振興会
ミノサイクリンによる心サルコイドーシスの肉芽腫性炎症抑制効果についての研究	折居 誠	循環器内科学	1,690	(補委)	日本学術振興会
冠動脈プラーク内マクロファージ数がプラーク破裂に及ぼす影響についての検討	田中 篤	循環器内科学	1,690	(補委)	日本学術振興会
心筋梗塞後急性期における血糖日内変動の心筋救済に及ぼす影響とその治療法の確立	寺口 郁子	循環器内科学	2,340	(補委)	日本学術振興会
エリスロポエチンによる心筋梗塞再灌流後の冠循環改善効果についての研究	平田 久美子	循環器内科学	2,730	(補委)	日本学術振興会
統合失調症の認知機能障害に対するrTMSの治療機作のGABA機能評価による検討	鵜飼 聡	神経精神医学	650	(補委)	日本学術振興会
過重労働者に対するiCBTの有効性とNIRSを用いたCBTの神経基盤の検討	坂本 友香	神経精神医学	2,080	(補委)	日本学術振興会
GABA機能に着目した統合失調症の認知機能障害の病態解明と神経生理学的指標の確立	高橋 隼	神経精神医学	650	(補委)	日本学術振興会
機能的結合fMRI、拡散テンソル画像による抗てんかん薬の反応性の検討	辻 富基美	神経精神医学	910	(補委)	日本学術振興会
嗅覚・アセチルコリン系障害仮説で探るDUP(精神病未治療期間)	正山 勝	神経精神医学	260	(補委)	日本学術振興会
メサンギウムIgA受容体に着目した小児IgA腎症発症メカニズムの解明	島 友子	小児科学	1,820	(補委)	日本学術振興会
川崎病発症児におけるHLAクラスII多型(DP, DQ, DR)の亜群存在の解明	末永 智浩	小児科学	1,430	(補委)	日本学術振興会
川崎病発症メカニズム解明に対する新たな分子遺伝学的検討	鈴木 啓之	小児科学	2,210	(補委)	日本学術振興会
難治性川崎病に対するNFAT経路遮断薬による新たな治療法開発の試み	武内 崇	小児科学	1,690	(補委)	日本学術振興会
上皮間葉移行(EMT)に着目した多発性嚢胞腎の病態特異的治療の開発	戸川 寛子	小児科学	1,170	(補委)	日本学術振興会
ユビキチン・プロテアソームに着目した多発性嚢胞腎病態生理に基づく疾患特異的治療	中西 浩一	小児科学	1,430	(補委)	日本学術振興会
多発性嚢胞腎におけるfibrocyte線維化促進機序の分子生物学的解明	浜 武継	小児科学	2,340	(補委)	日本学術振興会
溶血性尿毒症症候群に合併する急性脳症の発症を防止する分子免疫的治療法の開発	南 弘一	小児科学	1,300	(補委)	日本学術振興会
IgA腎症進行にインフラマソームが果たす役割の解析とその応用による新治療法の開発	吉川 徳茂	小児科学	5,460	(補委)	日本学術振興会
MRIによる流体解析を用いた頸動脈狭窄症のhigh risk groupの同定	新谷 亜紀	脳神経外科学	1,820	(補委)	日本学術振興会
組織培養法を応用した肺癌多臓器転移モデルによる転移先臓器特異性決定遺伝子群の同定	吉増 達也	外科学第一	910	(補委)	日本学術振興会
特発性自然気胸における新規弾性線維形成異常の同定	平井 慶充	外科学第一	910	(補委)	日本学術振興会
腫瘍微小環境におけるIL-17/IL-21axisの解明と新規免疫療法の開発	飯田 武	外科学第二	910	(補委)	日本学術振興会

小計
23

大腸癌のCECAM1 isoformの変化と癌の形態および間質に関する研究	家田 淳司	外科学第二	910	(補委)	日本学術振興会
CEA遺伝子導入ES細胞由来樹状細胞を用いた癌ワクチン療法	尾島 敏康	外科学第二	390	(補委)	日本学術振興会
食道癌に対する新規アジュバントHVJ-E併用癌ワクチン療法の開発	勝田 将裕	外科学第二	780	(補委)	日本学術振興会
ドレーン排液中サイトカイン網羅的解析による臍切除後重症臍液瘻早期診断モデルの確立	川井 学	外科学第二	650	(補委)	日本学術振興会
臍癌におけるMUC16, mesothelinによる浸潤能促進メカニズムの解析	清水 敦史	外科学第二	1,430	(補委)	日本学術振興会
肝硬変肝機能障害およびその術後経過が好中球の機能および膜脂脂肪酸構成に及ぼす影響	瀧藤 克也	外科学第二	1,170	(補委)	日本学術振興会
iPS細胞由来樹状細胞／癌幹細胞融合ワクチンを用いた新規的癌免疫療法の開発	中村 公紀	外科学第二	780	(補委)	日本学術振興会
胃癌選択的殺細胞効果を強化した新しいウイルス療法の開発	中森 幹人	外科学第二	1,040	(補委)	日本学術振興会
ヒストンメチル基置換酵素SETD8を標的とした肝細胞癌の新規分子標的治療薬の開発	速水 晋也	外科学第二	910	(補委)	日本学術振興会
包括的SNPアレイ解析と遺伝子発現プロファイルの統合から導いた新規臍癌治療戦略	廣野 誠子	外科学第二	1,300	(補委)	日本学術振興会
特殊光観察を応用した新規腹腔鏡下大腸癌手術法の開発	堀田 司	外科学第二	2,340	(補委)	日本学術振興会
癌幹細胞の細胞周期機構を標的とした新規癌ワクチン療法の開発	松田 健司	外科学第二	2,080	(補委)	日本学術振興会
Regulatory T細胞制御を基盤とした癌ワクチン療法の新展開	宮澤 基樹	外科学第二	780	(補委)	日本学術振興会
臍癌に対する術後再発予防のための2方向性新規ペプチドワクチン療法の開発	山上 裕機	外科学第二	153,300	(補委)	厚生労働省
臍癌に対する2方向性ペプチドワクチン療法を応用した新規治療戦略	山上 裕機	外科学第二	4,420	(補委)	日本学術振興会
iPS細胞由来樹状細胞とオートファジー誘導分子搭載ウイルスによる臍癌免疫療法	山上 裕機	外科学第二	1,430	(補委)	日本学術振興会
大腸癌浸潤先進部CEACAM1発現細胞を標的とした新規癌治療の開発	横山 省三	外科学第二	650	(補委)	日本学術振興会
MRI画像上の腰部脊柱管狭窄有所見者の予後とその予測因子:住民コホートの追跡	石元 優々	整形外科学	1,560	(補委)	日本学術振興会
低侵襲脊椎手術実現のための新しい機能診断方法の開発	岩崎 博	整形外科学	1,560	(補委)	日本学術振興会
椎間板変性モデルを用いた腰痛治療法の確立	川上 守	整形外科学	2,080	(補委)	日本学術振興会
脊髄後角における顆粒球コロニー刺激因子がもたらす鎮痛作用メカニズムの解明	筒井 俊二	整形外科学	2,860	(補委)	日本学術振興会
腰椎椎間孔外側病変ならびにダブルクラッシュ病変における疼痛メカニズムの解明	橋爪 洋	整形外科学	1,690	(補委)	日本学術振興会
地域住民コホート研究による腰部脊柱管狭窄症の自然経過の解明	山田 宏	整形外科学	1,170	(補委)	日本学術振興会

脊髄損傷後の難治性疼痛におけるROSの関与について	吉田 宗人	整形外科学	650	(補委)	日本学術振興会
膠原病の難治性皮疹に対するヒドロキシクロキンの作用機序の解明	池田 高治	皮膚科学	1,040	(補委)	日本学術振興会
難治性慢性炎症疾患における自己炎症シグナル活性化の探索のための基盤創成	金澤 伸雄	皮膚科学	1,690	(補委)	日本学術振興会
遺伝性プロテアソーム不全症である中條－西村症候群の病態解明と酵素補充療法の試み	国本 佳代	皮膚科学	2,080	(補委)	日本学術振興会
IL-6阻害とT細胞抑制による関節リウマチ患者の免疫機能に対する修飾の相違点	村上 美帆	皮膚科学	1,690	(補委)	日本学術振興会
ヒト試料を用いたアパタセプト(CTLA4-Ig)のリウマチ治療効果発現機序の解明	松谷 隆治	皮膚科学	1,820	(補委)	日本学術振興会
癌幹細胞抗原DNAJB8を標的としたペプチド免疫療法の確立	西澤 哲	泌尿器科学	2,210	(補委)	日本学術振興会
尿路上皮癌に対する免疫抑制物質IDOを用いた新規免疫療法の開発	原 勲	泌尿器科学	650	(補委)	日本学術振興会
尿路上皮癌患者に対する多剤併用化学療法の効果予測を目的としたバイオマーカーの確立	松村 永秀	泌尿器科学	2,470	(補委)	日本学術振興会
光触媒表面処理IOLによる新たな後発白内障抑制方法の検討	石川 伸之	眼科学	1,170	(補委)	日本学術振興会
TSAおよびAc-SDKPの眼科線維化疾患の治療効果の実験的検討	泉谷 愛	眼科学	910	(補委)	日本学術振興会
TRPチャネルを介した眼組織血管新生に対する新しい治療戦略の確立	岡田 由香	眼科学	1,690	(補委)	日本学術振興会
TGFβシグナルのTRPによる調節を標的とした眼線維化疾患の新規治療戦略の確立	雑賀 司珠也	眼科学	1,300	(補委)	日本学術振興会
TRPチャネル制御における難治性神経麻痺性角膜上皮障害の新規治療法の開発	住岡 孝吉	眼科学	1,040	(補委)	日本学術振興会
上皮間葉系移行を標的とした脈絡膜悪性腫瘍の浸潤・転移抑制治療の開発	田中 才一	眼科学	650	(補委)	日本学術振興会
自律神経障害によるドライアイに関する基礎的、臨床的研究と新規治療の研究	友寄 勝夫	眼科学	2,860	(補委)	日本学術振興会
α9インテグリンリガンドを標的とした脈絡膜・網膜・角膜新生血管の新しい治療法	藤田 識人	眼科学	780	(補委)	日本学術振興会
ヒト臍帯由来間葉系幹細胞移植による眼表面瘢痕組織の再生	山中 修	眼科学	1,950	(補委)	日本学術振興会
鼻咽腔細菌叢評価に及ぼす抗菌薬の影響の網羅的遺伝子解析と、抗菌薬適正使用の検討	小上 真史	耳鼻咽喉科学	1,430	(補委)	日本学術振興会
母体免疫由来の母乳栄養による新生児期免疫再構築に関する研究	河野 正充	耳鼻咽喉科学	2,340	(補委)	日本学術振興会
山椒由来抗アレルギー成分探索とその作用機序の解明	河野 良平	耳鼻咽喉科学	1,430	(補委)	日本学術振興会
網羅的遺伝子解析による中耳細菌叢評価と、鼓膜換気チューブ挿入の治療効果の検討	杉田 玄	耳鼻咽喉科学	1,430	(補委)	日本学術振興会
インフルエンザ菌に対する最小バイオフィルム抑制濃度に基づく新治療戦略の研究	竹井 慎	耳鼻咽喉科学	1,560	(補委)	日本学術振興会

小計
23

マイクロRNAによる頭頸部癌転移のリスク診断の試み	玉川 俊次	耳鼻咽喉科学	2,210	(補委)	日本学術振興会
急性中耳炎難治化に対する肺炎球菌フェーズ変化の抑制による治療戦略に関する研究	戸川 彰久	耳鼻咽喉科学	1,430	(補委)	日本学術振興会
頭頸部癌・癌幹細胞における特異的マイクロRNAの解析と分子標的治療への応用	ベデルレヴェント	耳鼻咽喉科学	1,820	(補委)	日本学術振興会
母体経鼻免疫における仔マウスにおける免疫学的メモリーの研究	保富 宗城	耳鼻咽喉科学	1,690	(補委)	日本学術振興会
肺炎球菌ワクチン導入前後の肺炎球菌急性中耳炎分離株の血清型の変化に関する研究	山中 昇	耳鼻咽喉科学	2,080	(補委)	日本学術振興会
放射線治療時の危険臓器移動法の開発	岸 和史	放射線医学	650	(補委)	日本学術振興会
抗癌剤を組み込んだ溶解型ゼラチンマイクロスクエアの抗癌剤徐放性の基礎的研究	佐藤 守男	放射線医学	260	(補委)	日本学術振興会
正常豚胆嚢動脈塞栓術における組織障害の比較検討	三田 裕記	放射線医学	2,340	(補委)	日本学術振興会
卵巣癌腹膜播種における免疫寛容誘導機序の解明と新規標的免疫療法の開発	井篁 一彦	産科婦人科学	780	(補委)	日本学術振興会
顎関節内障におけるテネイシンCの働き	東條 格	歯科口腔外科学	1,950	(補委)	日本学術振興会
顎関節内障における性ホルモンの影響	藤田 茂之	歯科口腔外科学	1,950	(補委)	日本学術振興会
がん性腹水の進展におけるアクアポリンチャネルの関与と機能解析—新薬開発をめざして	栗山 俊之	麻酔科学	1,430	(補委)	日本学術振興会
遺伝子一塩基多型解析から考証する妊娠期薬剤性冠動脈攣縮作用の解明	谷奥 匡	麻酔科学	2,080	(補委)	日本学術振興会
敗血症の経時的変化に対するカリウムチャネル阻害作用を有する鎮痛薬の効果	丹下 和晃	麻酔科学	910	(補委)	日本学術振興会
星状細胞内カルシウムシグナル伝達を介する高血圧時微小脳血流調節と麻酔薬作用の解明	中畑 克俊	麻酔科学	2,730	(補委)	日本学術振興会
低酸素に暴露された肺上皮細胞に対するニコランジルの影響	羽場 政法	麻酔科学	1,430	(補委)	日本学術振興会
プロポフォール依存(中毒)に脳内報酬系のmiRNAが及ぼす影響	藤井 啓介	麻酔科学	3,120	(補委)	日本学術振興会
有効性と経済性から見た大学病院における職場環境アレルゲン削減への取り組みの評価	水本 一弘	麻酔科学	1,040	(補委)	日本学術振興会
ライブセルイメージング法を用いた脊髄血流維持機構の解明と麻酔薬作用に関する新研究	吉村 聖子	麻酔科学	2,730	(補委)	日本学術振興会
甲状腺未分化癌におけるPodocalyxinの役割とその治療応用に関する解析	安岡 弘直	臨床検査医学	780	(補委)	日本学術振興会
オプチニューリン機能異常を基盤としたALSの発症機序解明と新規治療候補薬の開発	伊東 秀文	神経内科学	5,590	(補委)	日本学術振興会
パーキンソン病および関連疾患における姿勢異常の病態の解明と治療法の開発	村田 顕也	神経内科学	1,430	(補委)	日本学術振興会
野生株ポリオとワクチンポリオの相違についての比較検討	青木 秀哲	リハビリテーション医学	741	(補委)	日本学術振興会

視床障害者における皮膚交感神経活動測定と局所温熱療法の作用機序の解明	神埜 奈美	リハビリテーション医学	650	(補委)	日本学術振興会
温浴におけるサイトカイン発現に関する研究	田島 文博	リハビリテーション医学	1,820	(補委)	日本学術振興会
IFN γ ・STAT1・PAI-1シグナル抑制による緊急手術後腸管癒着予防法の開発	上田 健太郎	救急・集中治療医学	910	(補委)	日本学術振興会
TGF β ータ/Smadシグナルを標的とした皮膚の瘢痕化の薬物療法の開発	木田 真紀	救急・集中治療医学	1,820	(補委)	日本学術振興会
高度凝固障害を伴う重症外傷TAEで救急医が平易に扱える強力な塞栓物質の新規開発	米満 尚史	救急・集中治療医学	1,560	(補委)	日本学術振興会
腎機能低下に伴うMg代謝異常の骨由来リン尿因子と抗加齢蛋白に対する効果の検討	大矢 昌樹	腎臓内科学	1,690	(補委)	日本学術振興会
腎機能障害に伴うリン過剰に応答するリン感受性機構とリンセンサーの探索	重松 隆	腎臓内科学	780	(補委)	日本学術振興会
線維芽細胞増殖因子23の脾臓における発現の生物学的意義についての解析	美馬 亨	腎臓内科学	1,300	(補委)	日本学術振興会
B細胞性腫瘍発生におけるmicroRNA142過剰発現の役割	園木 孝志	血液内科学	1,560	(補委)	日本学術振興会
特発性造血障害におけるNKG2Dリガンド発現の臨床的意義の確立	花岡 伸佳	血液内科学	2,080	(補委)	日本学術振興会
一般住民における腰痛発症と骨粗鬆症との関連についての縦断調査	石本 優々	紀北分院	800	(補委)	骨粗鬆財団
農業地域住民の循環器疾患発症と早期動脈硬化危険因子に関する研究	有田 幹雄	紀北分院(内科)	2,470	(補委)	日本学術振興会

小計
12

累計
124

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Inaba H, Moise L, Martin W, De Groot AS, Desrosiers J, Tassone R, Buchman G, Akamizu T, De Groot LJ	Department of Cellular and Molecular Biology, University of Rhode Island; EpiVax, Inc; Chesapeake-Protein Expression and Recovery Labs; The First Department of Medicine, Wakayama Medical University	Epitope recognition in HLA-DR3 transgenic mice immunized to TSH-R protein or peptides	Endocrinology 154(6):p2234-2243, 2013
2	Inaba H, Hayakawa T, Miyamoto W, Takeshima K, Yamaoka H, Furukawa Y, Kawashima H, Ariyasu H, Wakasaki H, Furuta H, Nishi M, Nakao T, Sasaki H, Okada Y, Matsunaga K, Nakamura Y,	The First Department of Medicine, Wakayama Medical University; Department of Ophthalmology, Wakayama Medical University; Department of Respiratory Medicine, Wakayama Medical University; Department of Clinical Laboratory Medicine, Wakayama Medical University	IgG4-related Ocular Adnexal Disease Mimicking Thyroid-associated Orbitopathy	Intern Med 52(22):p2545-2451, 2013
3	Yoshida T, Kato J, Maekita T, Yamashita S, Enomoto S, Ando T, Niwa T, Deguchi H, Ueda K, Inoue I, Iguchi M, Tamai H, Ushijima T, Ichinose M	第二内科	Altered mucosal DNA methylation in parallel with highly active Helicobacter pylori-related gastritis.	Gastric Cancer 16; 488-497, 2013
4	Mori Y, Tamai H, Shingaki N, Moribata K, Deguchi H, Ueda K, Inoue I, Maekita T, Iguchi M, Kato J, Terada M, Ichinose M	第二内科	Detection of hypervascular hepatocellular carcinoma with non-enhanced magnetic resonance imaging including diffusion-weighted imaging.	Journal of Gastroenterology and Hepatology Research 21; 473-478, 2013
5	Matsunaga K, Hirano T, Akamatsu K and Minakata Y	第三内科	Predictors for Identifying the Efficacy of Systemic Steroids on Sustained Exhaled Nitric Oxide Elevation in Severe Asthma	Allergol Int 62: 359-365, 2013
6	Matsunaga K, Kawabata H, Hirano T, Sugiura H, Minakata Y, Ichinose M	第三内科	Difference in time-course of improvement in asthma control measures between budesonide and budesonide/formoterol	World Biomedical Frontiers Allergy 2013 May(2)-5, 2013

小計 6

7	Hirano T, Matsunaga K, Sugiura H, Minakata Y, Koarai A, Akamatsu K, Ichikawa T, Furukawa K, Ichinose M	第三内科	Persistent elevation of exhaled nitric oxide and modification of corticosteroid therapy in asthma	Respir Investig 51: 84-91, 2013
8	Ichikawa T, Sugiura H, Koarai A, Kikuchi T, Hiramatsu M, Kawabata H, Akamatsu K, Hirano T, Nakanishi M, Matsunaga K, Minakata Y, Ichinose M	第三内科	25-Hydroxycholesterol promotes fibroblast- mediated tissue remodeling through NF- κ β dependent pathway	Experimental Cell Research 319: 1176- 1186, 2013
9	Matsunaga K, Hirano T, Akamatsu K and Minakata Y	第三内科	Predictors for Identifying the Efficacy of Systemic Steroids on Sustained Exhaled Nitric Oxide Elevation in Severe Asthma	Allergol Int 62: 359- 365, 2013
10	Hirano T, Matsunaga K, Sugiura H, Minakata Y, Koarai A, Akamatsu K, Ichikawa T, Furukawa K, Ichinose M	第三内科	Relationship between alveolar nitric oxide concentration in exhaled air and small airway function in COPD	J Breath Res 7(4): 046002, 2013
11	Akamatsu H, Inoue A, Mitsudomo T, Kobayashi K, Nakagawa K, Mori K, Nukiwa T, Nakanishi Y, Yamamoto N	第三内科	Interstitial Lung Disease Associated with Gefitinib in Japanese Patients with EGFR- mutated Non-small-cell Lung Cancer: Combined Analysis of Two Phase III Trials(NEJ 002 and WJTOG 3405)	Jpn J Clin Oncol 43(6): 664-668, 2013
12	Yamamoto N, Murakami H, Nishina T, Hirashima T, Sugio K, Muro K, Takahashi T, Naito T, Yasui H, Akinaga S, Koh Y, Boku N	第三内科	The effect of CYP2C19 polymorphism on the safety, tolerability, and pharmacokinetics of tivatinib (ARQ 197): Results from a phase I trial in advanced solid tumors	Ann Oncol 24(6): 1653-1659, 2013

小計 6

13	Minakata Y, Sugino A, Kanda M, Ichikawa T, Akamatsu K, Koarai A, Hirano T, Nakanishi M, Sugiura H, Matsunaga K, Ichinose M	第三内科	Reduced level of physical activity in Japanese patients with chronic obstructive pulmonary disease	Respir Investig 52(1): 41-48, 2014
14	Akamatsu H, Mori K, Naito T, Imai H, Ono A, Shukuya T, Taira T, Kenmotsu H, Murakami H, Endo M, Harada H, Takahashi T, Yamamoto N	第三内科	Progression-free survival at 2 years is a reliable surrogate marker for the 5-year survival rate in patients with locally advanced non-small cell lung cancer treated with chemoradiotherapy	BMC Cancer 14:18, 2014
15	Orii M	Department of Cardiovascular Medicine,Wakayama,Medical University	Inter-scan reproducibility of geometric coronary artery measurements using frequencydomain optical coherence tomography.	Int Heart J 54(2):64- 67,2013
16	Shiono Y	Department of Cardiovascular Medicine,Wakayama,Medical University	Impact of attenuated plaque as detected by intravascular ultrasound on the occurrence of microvascular obstruction after percutaneous coronary intervention in patients with ST- segment elevation myocardial infarction.	JACC Cardiovasc Interv 6(8):847- 853,2013
17	matsuo Y	Department of Cardiovascular Medicine,Wakayama,Medical University	Circulating malon dialdehydemodified low- density lipoprotein levels are associated with the presence of thin-cap fibroatheromas determined by optical coherence tomography in coronary artery disease.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging 14(1):43-50,2013
18	Ino Y	Department of Cardiovascular Medicine,Wakayama,Medical University	Difference of neointimal appearance between early and late restenosis after sirolimuseluting stent implantation assessed by optical coherence tomography.	Coron Artery Dis 24(2):95-101,2013
19	Orii M	Department of Cardiovascular Medicine,Wakayama,Medical University	Early abnormality detected by speckle-tracking echocardiography in a patient with suspected cardiac sarcoidosis.	J Echocardiogr 11(2):69-71,2013
20	Matsuo Y	Department of Cardiovascular Medicine,Wakayama,Medical University	Repeated episodes of thrombosis as a potential mechanism of plaque progression in cardiac allograft vasculopathy.	Eur Heart J 34(37):2905- 2915,2013
21	Shimokado A	Department of Cardiovascular Medicine,Wakayama,Medical University	Scanning electron microscopic analysis of polymer damage in drug-eluting stents during multiple stenting.	Int J Cardiovasc Imaging 29(8):1909- 1913,2013
22	Hirata K	Department of Cardiovascular Medicine,Wakayama,Medical University	Image modalities to assess cardiac tumors: Echocardiography multidetector CT, and MR imaging	Journal of Cardiology Cases 8:e91-e92,2013
23	Shun Takahashi	Department of Neuropsychiatry,Wakayama Medical University	Reduction of cortical GABAergic inhibition correlates with working memory impairment in recent onset schizophrenia	Schizophrenia Research 146(1-3): 238-243,2013

24	Shun Takahashi	Department of Neuropsychiatry, Wakayama Medical University	Cerebral blood flow in the subgenual anterior cingulate cortex and modulation of the mood-regulatory networks in a successful rTMS treatment for major depressive disorder	Neurocase 19(3):262-267, 2013
25	Masaru Shoyama	Department of Neuropsychiatry, Wakayama Medical University	Short latency afferent inhibition in schizophrenia patients	ASEAN Journal of Psychiatry 14(2):126-133, 2013
26	Shima Y, Nakanishi K, Hama T, Mukaiyama H, Togawa H, Sako M, Kaito H, Nozu K, Tanaka R, Iijima K, Yoshikawa N	Department of Pediatrics, Wakayama Medical University/Division for Clinical Trials, National Center for Child Health and Development/Department of Pediatrics, Kobe University Graduate School of Medicine/Department of Nephrology, Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital	Spontaneous remission in children with IgA nephropathy	Pediatr Nephrol 28:71-76, 2013
27	Togawa H, Nakanishi K, Mukaiyama H, Hama T, Shima Y, Nakano M, Fujita N, Iijima K, Yoshikawa N	Department of Pediatrics, Wakayama Medical University/Department of Pediatrics, Seirei Hamamatsu General Hospital/Department of Pediatrics, Kobe University Graduate School of Medicine	First Japanese case of Pierson syndrome with mutations in LAMB2	Pediatr Int 55:229-231, 2013
28	Hama T, Nakanishi K, Mukaiyama H, Shima Y, Togawa H, Sako M, Nozu K, Iijima K, Yoshikawa N	Department of Pediatrics, Wakayama Medical University/Division for Clinical Trials, National Center for Child Health and Development/Department of Pediatrics, Kobe University Graduate School of Medicine	Endoplasmic reticulum stress with low-dose cyclosporine in frequently relapsing nephrotic syndrome	Pediatr Nephrol 28:903-909, 2013
29	Nakanishi K, Iijima K, Ishikura K, Hataya H, Nakazato H, Sasaki S, Honda M, Yoshikawa N	Department of Pediatrics, Wakayama Medical University/Department of Pediatrics, Kobe University Graduate School of Medicine/Department of Nephrology, Tokyo Metropolitan Children's Medical Center/Department of Pediatrics, Faculty of Life Science, Kumamoto University/Department of Pediatrics, Hokkaido University Graduate School of Medicine	Two-year outcome of the ISKDC regimen and frequent-relapsing risk in children with idiopathic nephrotic syndrome	Clin J Am Soc Nephrol 8:756-762, 2013
30	Kumagai T, Higuchi R, Higa A, Tsuno Y, Hiramatsu C, Sugimoto T, Booka M, Okutani T, Yoshikawa N	Department of Pediatrics, Wakayama Medical University/Division of NICU, Department of Perinatal Medicine, Wakayama Medical University	Correlation between echocardiographic superior vena cava flow and short-term outcome in infants with asphyxia	Early Hum Dev 89:307-310, 2013
31	Tsuda Y, Oguni H, Sakauchi M, Osawa M	Department of Pediatrics, Tokyo Women's Medical University/Department of Pediatrics, Wakayama Medical University	An electroclinical study of absence seizures in Dravet syndrome	Epilepsy Res 103(1):88-96, 2013
32	本田賢太郎	第一外科	Three-dimensional echocardiography and operative imaging of a false tendon connecting the left atrial wall to the anterior mitral leaflet	Eur Heart J. 2013 Jan;34(4):318
33	本田賢太郎	第一外科	Migration of the ringed ePTFE graft into the small intestine.	J Vasc Surg. 2013 Feb;57(2):525

34	平井慶充	第一外科	Removal of an endobronchial foreign body using an ultrathin flexible bronchoscope and a novel suction system.	J Bronchology Interv Pulmonol. 2013 Oct;20(4):363-4
35	打田俊司	第一外科	Successful staged repair for a rare type of truncus arteriosus with interruption of the aortic arch and abnormal origin of the left coronary artery.	Cardiothorac Surg. 2013 May 28;8:136thorac Surg
36	田中由美	第一外科	Preoperative serum pyridinoline cross-linked carboxy-terminal telopeptide of type I collagen level predicts postoperative distant metastasis in patients with non-small-cell lung cancer.	Eur J Cardiothorac Surg. 2013 Sep;44(3):539-43
37	石垣貴彦	第一外科	Surgical treatment for metachronous second primary lung cancer after radical resection of primary lung cancer.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2013;19(5):341-4
38	Tsuji T, Nakamori M, Iwahashi M, Nakamura M, Ojima T, Iida T, Katsuda M, Hayata K, Ino Y, Todo T, Yamaue H	第二外科	An armed oncolytic herpes simplex virus expressing thrombospondin-1 has an enhanced in vivo antitumor effect against human gastric cancer.	Int J Cancer. 2013 Jan 15;132(2):485-94.
39	Okada K, Kawai M, Tani M, Hirono S, Miyazawa M, Shimizu A, Kitahata Y, Yamaue H	第二外科	Surgical strategy for patients with pancreatic body/tail carcinoma: who should undergo distal pancreatectomy with en-bloc celiac axis resection?	Surgery. 2013 Mar;153(3):365-72
40	Matsuda K, Hotta T, Takifuji K, Yokoyama S, Oku Y, Hashimoto T, Iwamoto H, Yamaue H	第二外科	Clinical outcome of up-front surgery in patients with asymptomatic, incurable synchronous peritoneal carcinomatosis.	Surg Today. 2013 Sep;43(9):984-9
41	Okada K, Kawai M, Uesaka K, Kodera Y, Nagano H, Murakami Y, Morita S, Sakamoto J, Yamaue H; JAPAN-PD Investigators	第二外科	Effect of Daikenchuto (TJ-100) on Postoperative Bowel Motility and on Prevention of Paralytic Ileus after Pancreaticoduodenectomy: A Multicenter, Randomized, Placebo-controlled Phase II Trial (The JAPAN-PD Study).	Jpn J Clin Oncol. 2013 Apr;43(4):436-8
42	Hayata K, Iwahashi M, Ojima T, Katsuda M, Iida T, Nakamori M, Ueda K, Nakamura M, Miyazawa M, Tsuji T, Yamaue H	第二外科	Inhibition of IL-17A in tumor microenvironment augments cytotoxicity of tumor-infiltrating lymphocytes in tumor-bearing mice.	PLoS One. 2013;8(1):e53131

43	Nasu T, Oku Y, Takifuji K, Hotta T, Yokoyama S, Matsuda K, Tamura K, Ieda J, Yamamoto N, Takemura S, Nakamura Y, Yamaue H	第二外科	Predicting lymph node metastasis in early colorectal cancer using the CITED1 expression.	J Surg Res. 2013 Nov;185(1):136-42.
44	Kawai M, Tani M, Okada K, Hirono S, Miyazawa M, Shimizu A, Kitahata Y, Yamaue H	第二外科	Stump closure of a thick pancreas using stapler closure increases pancreatic fistula after distal pancreatectomy.	Am J Surg. 2013 Sep;206(3):352-9
45	Yokoyama S, Takifuji K, Hotta T, Matsuda K, Watanabe T, Mitani Y, Ieda J, Yamaue H	第二外科	Survival benefit of lateral lymph node dissection according to the region of involvement and the number of lateral lymph nodes involved.	Surg Today. 2014 Jun;44(6):1097-103.
46	Ojima T, Iwahashi M, Nakamori M, Nakamura M, Katsuda M, Iida T, Hayata K, Yamaue H	第二外科	Atrial fibrillation after esophageal cancer surgery: an analysis of 207 consecutive patients.	Surg Today. 2014 May;44(5):839-47
47	Nakamura M, Iwahashi M, Nakamori M, Ojima T, Katsuda M, Iida T, Hayata K, Kato T, Yamaue H	第二外科	A new prognostic score for the survival of patients with esophageal squamous cell carcinoma.	Surg Today. 2014 May;44(5):875-83
48	Iwamoto H, Ojima T, Hayata K, Katsuda M, Miyazawa M, Iida T, Nakamura M, Nakamori M, Iwahashi M, Yamaue H	第二外科	Antitumor immune response of dendritic cells (DCs) expressing tumor-associated antigens derived from induced pluripotent stem cells: In comparison to bone marrow-derived DCs.	Int J Cancer. 2014 Jan 15;134(2):332-41
49	Okada K, Kawai M, Tani M, Hirono S, Miyazawa M, Shimizu A, Kitahata Y, Yamaue H	第二外科	Isolated Roux-en-Y anastomosis of the pancreatic stump in a duct-to-mucosa fashion in patients with distal pancreatectomy with en-bloc celiac axis resection.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2014 Mar;21(3):193-8

小計 7

50	Yamaue H, Satoi S, Kanbe T, Miyazawa M, Tani M, Kawai M, Hirono S, Okada K, Yanagimoto H, Kwon AH, Mukouyama T, Tsunoda H, Chijiwa K, Ohuchida J, Kato J, Ueda K, Yamaguchi T, Egawa S, Hayashi K, Shirasaka T	第二外科	Phase II clinical study of alternate-day oral therapy with S-1 as first-line chemotherapy for locally advanced and metastatic pancreatic cancer.	Cancer Chemother Pharmacol. 2014 Jan;73(1):97-102
51	Iida T, Iwahashi M, Katsuda M, Ishida K, Nakamori M, Nakamura M, Naka T, Ojima T, Ueda K, Hayata K, Yasuoka H,	第二外科	Prognostic significance of IL-17 mRNA expression in peritoneal lavage in gastric cancer patients who underwent curative resection.	Oncol Rep. 2014 Feb;31(2):605-12
52	Kawai M, Tani M, Hirono S, Okada K, Miyazawa M, Yamaue H	第二外科	Pylorus-Resecting Pancreaticoduodenectomy Offers Long-Term Outcomes Similar to Those of Pylorus-Preserving Pancreaticoduodenectomy: Results of a Prospective Study.	World J Surg. 2014 Jun;38(6):1476-83
53	Yoshimura S, Tsunoda T, Osawa R, Harada M, Watanabe T, Hikichi T, Katsuda M, Miyazawa M, Tani M, Iwahashi M, Takeda K, Katagiri T, Nakamura Y, Yamaue H	第二外科	Identification of an HLA-A2-Restricted Epitope Peptide Derived from Hypoxia-Inducible Protein 2 (HIG2).	PLoS One. 2014 Jan 8;9(1):e85267
54	Ojima T, Nakamori M, Nakamura M, Katsuda M, Iida T, Hayata K, Takifuji K, Iwahashi M, Matsumura S, Kato T, Kitadani J, Yamaue H	第二外科	Successful treatment of esophageal fistulas with endoscopic injection of alpha-cyanoacrylate monomer.	Endoscopy. 2014;46 Suppl 1 UCTN:E62-3
55	Kitahata Y, Kawai M, Tani M, Hirono S, Okada K, Miyazawa M, Shimizu A, Yamaue H	第二外科	Preoperative cholangitis during biliary drainage increases the incidence of postoperative severe complications after pancreaticoduodenectomy.	Am J Surg. 2014 Jul;208(1):1-10

56	Ojima T, Iwahashi M, Nakamori M, Nakamura M, Katsuda M, Iida T, Hayata K, Takifuji K, Yamaguchi S, Yamaue H	第二外科	Is Preoperative Colonoscopy Necessary for Patients Undergoing Gastric Cancer Surgery?	Ann Surg Oncol. 2014 Jun;21 Suppl 3:S379-84
57	Hirono S, Kawai M, Tani M, Okada K, Miyazawa M, Shimizu A, Kitahata Y, Yamaue H	第二外科	Indication for the use of an interposed graft during portal vein and/or superior mesenteric vein reconstruction in pancreatic resection based on perioperative outcomes.	Langenbecks Arch Surg. 2014 Apr;399(4):461-71
58	Hotta T, Takifuji K, Yokoyama S, Matsuda K, Oku Y, Nasu T, Tamura K, Ieda J, Yamamoto N, Iwamoto H, Yamaue H	第二外科	The Impact of a Pelvic Pillow on Learning How to Perform Laparoscopic Low Anterior Resection for Rectal Cancer.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2014 Jun;24(3):259-63
59	Ojima T, Takifuji K, Nakamura M, Iwahashi M, Nakamori M, Katsuda M, Iida T, Hayata K, Yamaue H	第二外科	Complications of endoscopic submucosal dissection for gastric noninvasive neoplasia: an analysis of 647 lesions.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2014 Aug;24(4):370-4
60	Okada K, Kawai M, Tani M, Hirono S, Miyazawa M, Shimizu A, Kitahata Y, Yamaue H	第二外科	Predicting factors for unresectability in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2014 Sep;21(9):648-53
61	Ojima T, Takifuji K, Nakamura M, Nakamori M, Katsuda M, Iida T, Hayata K, Iwahashi M, Yamaue H	第二外科	Endoscopic submucosal dissection for gastric tumors in various types of remnant stomach.	Endoscopy. 2014 Aug;46(8):645-9
62	Nakamura M, Nakamori M, Ojima T, Katsuda M, Iida T, Hayata K, Matsumura S, Kato T, Kitadani J, Iwahashi M, Yamaue H	第二外科	Reconstruction after proximal gastrectomy for early gastric cancer in the upper third of the stomach: An analysis of our 13-year experience.	Surgery. 2014 Jul;156(1):57-63
63	Tani M, Kawai M, Hirono S, Okada KI, Miyazawa M, Shimizu A, Kitahata Y, Yamaue H.	第二外科	Randomized clinical trial of isolated Roux- en-Y versus conventional reconstruction after pancreaticoduodenectomy.	Br J Surg. 2014 Aug;101(9):1084-91

64	橋爪洋	整形外科	Development and evaluation of a video exercise program for locomotive syndrome in the elderly	Mod Rheumatol. 2013 Mar 30. [Epub ahead of print], 2013
65	南出晃人	整形外科	The natural clinical course of lumbar spinal stenosis: a longitudinal cohort study over a minimum of 10 years	J Orthop Sci 2013; 18(5), 693-698.
66	南出晃人	整形外科	Endoscope-assisted spinal decompression surgery for lumbar spinal stenosis: technical note	J Neurosurg Spine 2013; 19(6); 664-671.
67	筒井俊二	整形外科	Quantification of the proportion of motor neurons recruited by transcranial electrical stimulation during intraoperative motor evoked potential monitoring	J Clin Monit Comput. 2013;27:633-7
68	筒井俊二	整形外科	Can decompression surgery relieve low back pain in patients with lumbar spinal stenosis combined with degenerative lumbar scoliosis?	Eur Spine J. 2013;22:2010-4
69	筒井俊二	整形外科	Risk factors and natural history of de novo degenerative lumbar scoliosis in a community-based cohort: The Miyama study	Spine Deformity. 2013;1:287-92.
70	Yokogawa N, Tanikawa A, Amagai M Kato Y, Momose Y, Arai S, Eto H, Ikeda T, Furukawa F	皮膚科	Response to hydroxychloroquine in Japanese patients with lupus-related skin disease using the cutaneous lupus erythematosus disease area and severity index (CLASI).	Mod Rheumatol 23: 318-322, 2013
71	Takigawa M, Tokura Y, Shimada S, Furukawa F, Noguchi N, Ito T	皮膚科	The Acne Study Group: Clinical and bacteriological evaluation of adapalene 0.1% gel plus nadifloxacin 1% cream versus adapalene 0.1% gel in patients with acne vulgaris,	J Dermatol 40: 620-625, 2013
72	Uede M, Kaminaka C, Yonei N, Furukawa F, Yamamoto Y	皮膚科	Persistent effects of adapalene gel after chemical peeling with glycolic acid in patients with acne vulgaris	The Open Dermatology Journal 7:42-46, 2013
73	Nobuo Kanazawa, Tomoyuki Nakamura, Naoya Mikita, Fukumi Furukawa	皮膚科	A novel IL36RN mutation in a Japanese case of early-onset generalized pustular psoriasis	J Dermatol 40: 749-751, 2013
74	Makoto Mizuno, Hajime Asano, Koichi Kameyama, Fukumi Furukawa, Yuki Yamamoto	皮膚科	In vitro evaluation of skin sensitizing potential of chemical peeling agents by the Human Cell Line Activation Test	Journal of Clinical & Experimental Dermatology Research 4:191. doi: 10.4172/2155-9554.1000191, Published November 13, 2013

75	柑本 康夫	泌尿器科	Association of metabolic syndrome traits and severity of kidney stones: results from a nationwide survey on urolithiasis in Japan	Am J Kidney Dis 61(6):923-9, 2013
76	倉本 朋未	泌尿器科	Docetaxel in combination with estramustine and prednisolone for castration-resistant prostate cancer	Int J Clin Oncol 18(5):890-7, 2013
77	西畑 雅也	泌尿器科	Effect of Kampo extracts on urinary stone formation: an experimental investigation	Int J Urol 20(10):1032-6, 2013
78	Kokado M	Ophthalmology	Increased fragility, impaired differentiation, and acceleration of migration of corneal epithelium of epiplakin-null mice.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2013 May
79	Nakata M	Ophthalmology	Diabetes mellitus suppresses hemodialysis-induced increases in tear fluid secretion.	BMC Res Notes. 2014 Feb
80	1. Ishikawa N	Ophthalmology	Errors in the prediction of postoperative refraction following intraocular lens implantation in eyes with pseudoexfoliation syndrome.	J Cataract Refract Surg. 2013 Apr
81	Yamanaka O	Ophthalmology	Lumican binds ALK5 to promote epithelium wound healing.	PLoS One. 2013 Dec
82	Yamanaka O	Ophthalmology	The role of extracellular matrix in corneal wound healing.	Cornea. 2014 Jan
83	保富宗城	耳鼻咽喉科	Application of outer membrane protein P6 specific enzyme-linked immunosorbent assay for detection of <i>Haemophilus influenzae</i> in middle ear fluids and nasopharyngeal secretions	PLoS One. 8(8):e71774, 2013
84	Shintaro Shirai, Morio Sato, Yasutaka Noda, Yoshitaka Kumayama, Noritaka Shimizu	Department of Radiology, Wakayama Medical University	Incorporating GSA-SPECT into CT-based dose-volume histograms for advanced hepatocellular carcinoma radiotherapy.	World J Radiol
85	Kawai N, Sato M, Minamiguchi H, Ikoma A, Sanda H, Nakai M, Sonomura T.	Department of Radiology, Wakayama Medical University	Percutaneous Sclerotherapy of a Fingertip High-Flow Arteriovenous Malformation with Ethanol plus Lipiodol.	J Vasc Interv Radiol.

86	Shimizu N1, Noda Y, Sato M, Shirai S, Kawai N, Harada S, Sakamoto T, Nishioku T.	Department of Radiology, Wakayama Medical University	Radiation dose to rectum in high-dose-rate brachytherapy with a single implant and two fractions for prostate cancer, and its prediction by prostate volume.	Radiol Phys Technol.
87	Sonomura T1, Koyama T, Ishii S, Takeuchi T, Sanda H, Nakata K, Nakai M, Minamiguchi H, Kishi K, Sato M.	Department of Radiology, Wakayama Medical University	Acute appendicitis with intestinal malrotation: the usefulness of coronal computed tomography.	Intern Med
88	Yoshitaka Kanayama, Chizuru Aoki, Nobuyuki Kawai, Morio Sato, and Yasuo Sakaia	Central Research Institute, Jellice Co Department of Radiology, Wakayama Medical University	Creation of Cisplatin-adsorbing regenerative- medicine gelatin sponge and its Cisplatin release pattern.	Biol Pharm Bull.
89	Sonomura Tetsuo, Hasegawa Seiji, Takeuchi Hinako, Ishii Seigo, Sato, Morio	Department of Radiology, Wakayama Medical University	Inflammatory myofibroblastic tumor of the lung indistinguishable from adenocarcinoma on imaging studies.	Clin Nucl Med
90	Nobuyuki Kawai, Morio Sato, Seiki Hosokawa, Kazuhiro Murotani, Hiroki Sanda, Kouhei Nakata, Hiroki Minamiguchi, Motoki Nakai,	Wakayama Medical University	Prostate-supplying arteriogram created by multidetector-row CT during pelvic arteriography: contribution to the treatment strategy of prostatic artery embolization for prostatic hyperplasia	Jpn J Radiol
91	Akira Ikoma · Motoki Nakai · Morio Sato · Hirotatsu Sato · Hinako Takeuchi · Fumihiro Tanaka · Hiroki Sanda · Kouhei Nakata · Hiroki Minamiguchi · Tetsuo Sonomura·	Department of Radiology, Wakayama Medical University	Changes in inflammatory, coagulopathic, and fibrinolytic responses after endovascular repair of an abdominal aortic aneurysm: relationship between fibrinogen degradation product levels and endoleaks.	Jpn J Radiol
92	Tetsuo Sonomura, Nobuyuki Kawai, Kazushi Kishi, Akira Ikoma, Hiroki Sanda, Kouhei Nakata, Hiroki Minamiguchi, Motoki Nakai, Seiki Hosokawa, Hideyuki Tamai, Morio Sato	Departments of 1Radiology and 2Internal Medicine, Wakayama Medical University	N-Butyl Cyanoacrylate Embolization with Blood Flow Control of an Arteriportal Shunt That Developed after Radiofrequency Ablation of Hepatocellular Carcinoma	Korean J Radiol
93	Motoki Nakai, Hirotatsu Sato, Akira Ikoma, Tetsuo Sonomura, MorioSato	Department of Radiology, Wakayama Medical University	The use of technetium-99m-labeled human serum albumin diethylenetriamine pentaacetic acid single-photon emission CT scan in the follow-up of type II endoleak treatment.	J Vasc Interv Radiol

94	Hiroki Minamiguchi, Nobuyuki Kawai, Morio Sato*, Akira Ikoma, Hiroki Sanda, Kouhei Nakata, Fumihiro Tanaka, Motoki Nakai, Tetsuo Sonomura, Kazuhiro Murotani, Seiki Hosokawa and Tadayoshi	Department of Radiology, Wakayama Medical University	Volume-rendered hemorrhage-responsible arteriogram created by 64 multidetector-row CT during aortography: utility for catheterization in transcatheter arterial embolization for acute arterial bleeding	Springerplus
95	Seiki Hosokawa, Nobuyuki Kawai, Morio Sato, Hiroki Minamiguchi, Motoki Nakai, Kazuhiro Murotani, Tadayoshi Nishioku, Shintaro Shirai, Tetsuo	Department of Radiology, Wakayama Medical University	Comparison of air kerma between C-arm CT and 64-multidetector-row CT using a phantom.	Jpn J Radiol
96	Seiki Hosokawa, Nobuyuki Kawai, Morio Sato, Hiroki Minamiguchi, Hiroki Sanda, Motoki Nakai, Kazuhiro Murotani, Tadayoshi Nishioku, Tetsuo Sonomura	Department of Radiology, Wakayama Medical University	Optimal scanning timing by use of multi-detector row computed tomography during thoracic aortography for depiction of arteries causing hemoptysis	Radiol Phys Technol
97	Kazushi Kishi, Nobuo Morita, Tomoaki Terada, Morio Sato and Tetsuo Sonomura	Department of Radiation Oncology, Tumor Center, Wakayama Medical University Department of Oral and Maxillary Surgery, Wakayama Rosai Hospital Department of Neurosurgery, Wakayama Rosai Hospital	Physiological interpretations of radiographic findings on malformations of small veins: seriality of cisterns, communications to systemic veins and relationship to muscles.	Phlebology
98	小林 彩	産科婦人科	Adverse perinatal and neonatal outcomes in patients with chronic abruption-oligohydramnios sequence.	Journal of Obstetrics and Gynecology Research, Vol.40, No.6, 1618-1624, 2014
99	谷崎 優子	産科婦人科	Diagnostic value of preoperative SUVmax on FDG-PET/CT for the detection of ovarian cancer.	International journal of Gynecological Cancer, Vol.24, No.3, 454-460, 2014
100	溝口 美佳	産科婦人科	Ovarian steroid cell tumor, not otherwise specified, producing testosterone.	Journal of Obstetrics and Gynecology Research, Vol.40, No.9, 2081-2085, 2014
101	山崎亮典	麻酔科	Severe colchicine intoxication after self-administration of colchicines concomitantly with loxoprofen	J Anesth 2013, 27:1310-4

102	川島浩平	麻酔科	“Spontaneous” rupture of the maternal diaphragm	Anesthesiology 2013, 118:445
103	Murata KY, Ishiguchi H, Ando R, Miwa H, Kondo T.	Department of Neurology, Wakayama Medical University	Chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy associated with primary biliary cirrhosis.	J Clin Neurosci. 20(12):1799-801 2013
104	Ito H.	Department of Neurology, Wakayama Medical University	Basophilic inclusions and neuronal intermediate filament inclusions in amyotrophic lateral sclerosis and frontotemporal lobar degeneration.	Neuropathology. 2014 Mar 27.
105	Murata KY, Sugie H, Nishino I, Kondo T, Ito H.	Department of Neurology, Wakayama Medical University	A primigravida with very-long chain acyl-CoA dehydrogenase deficiency.	Muscle Nerve. 49(2):295-6 2014
106	Okamoto M, Yamanaka S, Yoshimoto W, Shigematsu T	腎臓内科	Alendronate as an effective treatment for bone loss and vascular calcification in kidney transplant recipients.	J Transplant. 2014;2014:269613. doi:10.1155/2014/269613. Epub 2014 Feb 19.
107	Nakata M, Okada Y, Kobata H, Shigematsu T, Reinach PS, Tomoyose K, Saika S	腎臓内科	Diabetes mellitus suppresses hemodialysis-induced increases in tear fluid secretion.	BMC Res Notes.2014 Feb 4;7:78.
108	Negi S,Koreeda D, Shigematsu T	腎臓内科	Dialysis medicine and risk management in disaster	Nihon Jinzo Gakkai Shi. 2013;55(4):529-33
109	Ohya M,Otani H, Minami Y, Yamanaka S, Mima T,Negi S, Yukawa S, Shigematsu T	腎臓内科	Tonsillectomy with steroid pulse therapy has more effect on the relapse rate than steroid pulse monotherapy in IgA nephropathy patients.	Clin Nephrol.2013 Jul;80(1):47-52.
110	Kyohei Miyamoto	救急集中治療医学講座	Oxygenation improves during the first 8 h of extended-duration prone positioning in patients with respiratory failure: a retrospective study	Journal of Intensive Care
111	島貫 栄弥	血液内科	Acute leukemia showing t(8;22)(p11;q11), myelodysplasia, CD13/CD33/CD19 expression and immunoglobulin heavy chain gene rearrangement.	Acta Haematologica
112	花岡 伸佳	輸血部	Occupancy of whole blood cells by a single PIGA-mutant clone with HMGA2 amplification in a paroxysmal nocturnal hemoglobinuria patient having blood cells with NKG2D ligands.	Br. Journal Haemat.
113	栗本 美和	血液内科	Pretreatment of leukemic cells with low-dose decitabine markedly enhances the cytotoxicity of gemtuzumabozogamicin.	Leukemia
114	栗本 美和	血液内科	Enteropathy Caused by α -Heavy Chain Disease Lacking Detectable M-proteins.	Internal Medicine
115	島貫 栄弥	血液内科	Molecular cloning of Ig λ rearrangements using long-distance inverse PCR (LDI-PCR)	Eur. Journal Hematol.
116	園木 孝志	血液内科	PVT1-A Cancer Associated Non-Coding Gene Revisited	Cloning & Transgenesis

小計 15

計 116

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

※下記
参照

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Asada K, Ando K, Niwa T, Nanjo S, Watanabe N, Okochi-Takada E, Yoshida T, Miyamoto K, Enomoto S, Ichinose M, Tsukamoto T, Ito S, Tatematsu M, Sugiyama T, Ushijima T	第二内科	FHL1 on chromosome X is a single-hit gastrointestinal tumor-suppressor gene and contributes to the formation of an epigenetic field defect.	Oncogene 32 2140-2149,2013
2	Tamai H, Moribata K, Mori Y, Shingaki N, Deguchi H, Ueda K, Inoue I, Maekita T, Iguchi M, Kato J, Ichinose M	第二内科	Low-dose pegylated interferon-alpha-2a monotherapy in elderly and/or cirrhotic patients infected with hepatitis C virus genotype-2 or genotype-1 low level infection.	Hepatol Res. 43:702-708, 2013.
3	Maekita T, Kato J, Nakatani Y, Enomoto S, Kayama T, Tsuji M, Nakaya T, Muraki Y, Deguchi H, Ueda K, Inoue I, Iguchi M, Tamai H, Ichinose M	第二内科	Usefulness of a continuous suction mouthpiece during percutaneous endoscopic gastrostomy:A single-center, prospective, randomized study.	Dig Endosc. 25:496-501, 2013.
4	Kim JG, Takeshima H, Niwa T, Rehnberg E, Shigematsu Y, Yoda Y, Yamashita S, Kushima R, Maekita T, Ichinose M, Katai H, Park WS, Hong YS, Park CH, Ushijima T	第二内科	Comprehensive DNA methylation and extensive mutation analyses reveal an association between the CpG island methylator phenotype and oncogenic mutations in gastric cancers.	Cancer Lett. 330; 33-40, 2013.

5	Inoue I, Kato J, Yoshimura N, Maeda Y, Moribata K, Shingaki N, Deguchi H, Enomoto S, Maekita T, Ueda K, Iguchi M, Tamai H, Fujishiro M, Yamamichi N, Takeshita T, Ichinose M	第二内科	Elevated risk of recurrent colorectal neoplasia with Helicobacter pylori associated chronic atrophic gastritis: A follow up study of patients with endoscopically resected colorectal neoplasia.	Mol Clin Oncol 1; 75-82, 2013.
6	Yamashita Y, Ueda K, Itonaga M, Yoshida T, Maeda H, Maekita T, Iguchi M, Tamai H, Ichinose M, Kato J	第二内科	Usefulness of contrast-enhanced endoscopic sonography for discriminating mural nodules from mucous clots in intraductal papillary mucinous neoplasms: a single-center prospective study.	J Ultrasound Med. 32; 61-8, 2013.
7	Wada Y, Tamai H, Uno A, Kawashima A, Shingaki N, Mori Y, Moribata K, Miyata K, Higashi K, Deguchi H, Ueda K, Inoue I, Maekita T, Iguchi M, Kato J and Ichinose M	第二内科	Prediction of efficacy to pegylated interferon α -2b plus ribavirin in patients with genotype-2 hepatitis C virus using viral response within two weeks.	Hepatol Res 44; 179-186, 2013.
8	8) Matsuda K, Takifuji K, Hotta T, Yokoyama S, Ieda J, Ariei K, Ichinose M, Nakamura Y, Yasuoka H, Yamaue H	第二内科	Angiosarcoma involving colon and bone successfully responded to paclitaxel and zoledronate	case report. Clin J Gastroenterol 6; 20-24, 2013
9	Ueyama T, Yamamoto Y, Ueda K, Yajima A, Maeda Y, Yamashita Y, Ito T, Tsuruo Y, Ichinose M	第二内科	Is gastrectomy-induced high turnover of bone with hyperosteoidosis and increase of mineralization a typical osteomalacia?	PLoS One. 8(6):e65685, 2013.
10	Yamashita Y, Ueda K, Itonaga M, Yoshida T, Maeda H, Maekita T, Iguchi M, Tamai H, Ichinose M, Kato J	第二内科	Tumor vessel depiction with contrast-enhanced endoscopic ultrasonography predicts efficacy of chemotherapy in pancreatic cancer.	Pancreas. 42; 990-5, 2013.

11	Shigematsu Y, Niwa T, Rehnberg E, Toyoda T, Yoshida S, Mori A, Wakabayashi M, Iwakura Y, Ichinose M, Kim YJ, Ushijima T	第二内科	Interleukin-1 β induced by Helicobacter pylori infection enhances mouse gastric carcinogenesis.	Cancer Lett. 340; 141-147, 2013.
12	Konno-Shimizu M, Yamamichi N, Inada K, Kageyama- Yahara N, Shiogama K, Takahashi Y, Asada-Hirayama I, Yamamichi- Nishina M, Nakayama C, Ono S, Kodashima S, Fujishiro M, Tsutsumi Y, Ichinose M, Koike K	第二内科	Cathepsin E is a marker of gastric differentiation and signet-ring cell carcinoma of stomach: a novel suggestion on gastric tumorigenesis.	PLoS One. 8(2):e56766, 2013.
13	13) Maekita T, Kato J, Nakatani Y, Enomoto S, Takano E, Tsuji M, Nakaya T, Moribata K, Muraki Y, Shingaki N, Niwa T, Deguchi H, Ueda K, Inoue I, Iguchi M, Tamai H, Ichinose M	第二内科	Usefulness of continuous suction mouthpiece during esophagogastroduodenoscopy: A single- center, prospective, randomized study.	World J Gastrointest Endosc 5: 508-513, 2013.
14	Shingaki N, Tamai H, Mori Y, Moribata K, Enomoto S, Deguchi H, Ueda K, Inoue I, Maekita T, Iguchi M, Kato J and Ichinose M.	第二内科	Serological and histological indices of hepatocellular carcinoma and tumor volume doubling time.	Molecular and Clinical Oncology 1; 977-981, 2013.
15	Furukawa F	Wakayama Medical University	Photosensitivity in lupus erythematosus,	Photomed Photobiol 34:5-11, 2012
16	Tchernev G, Penev PK, Nenoff P, Zisova LG, Cardoso JC, Taneva T, Ginter- Hanselmayer G, Ananiev J, Gulubova M, Hristova R, Nocheva D, Guarneri C, Martino G, Kanazawa N	Wakayama Medical University	Onychomycosis: modern diagnostic and treatment approaches	Wien Med Wochenschr 163:1- 12, 2013

17	Tchernev G, Tronnier M, Ananiev J, Taneva T, Patterson JW, Gulubova M, Trafeli JP, Gegova A, Harrell M, Guarneri C, Wollina U, Cardoso JC, Kanazawa N, Zisova L, Forsea AM, Zouboulis CC	Wakayama Medical University	Atypical fibroxanthoma—a diagnosis of exclusion!	Wien Med Wochenschr 163:380–386, 2013
18	Wang Y, Yamamoto Y, Furukawa F	Wakayama Medical University	Potential biomarkers about malignant melanoma	World J Dermatol 2: 44–50, 2013
19	Kanazawa N	Wakayama Medical University	Comprehensive review of rare hereditary autoinflammatory disorders.	J Genet Disor Genet Rep 2: 2, 2013
20	Yonei N, Kimura A, Furukawa F	Wakayama Medical University	Common Blue Nevus with Satellite Lesions Needs Differential Diagnosis with Malignant Melanoma	Case Reports in Dermatology 5:244- 247, 2013
21	Kunimoto K, Kimura A, Uede K, Aoyagi N, Furukawa F, Kanazawa K:	Wakayama Medical University	A new infant case of Nakajo–Nishimura syndrome with a genetic mutation in the immunoproteasome subunit	Case Reports in Dermatology 5:244- 247, 2013

- 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

※1.平成26年10月5日報告について(英語論文70件未満の場合)

- ・英語の論文を同様式で記載
 - ・旧法による日本語論文を同様式により別紙で記載
- 以上2点を提出すること

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 1 構成メンバー 2 所掌業務 3 申請の手続き 4 審議結果の通知	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(25 年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 和歌山県立医科大学利益相反マネジメント委員会の任務、審議事項、組織、議事、委員の任期など	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 研究者の倫理について	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成 25 年度実績)において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- 日本糖尿病学会糖尿病研修指導医 4 名、同学会糖尿病専門医 5 名、日本内分泌学会内分泌代謝科研修指導医 6 名、同学会内分泌代謝科専門医 2 名の指導の下、各々の学会の専門医研修カリキュラムに従い研修を実施している。【糖尿病・内分泌・代謝内科】
- 関連施設との連携により多数の症例が集まる肝臓・胃癌・大腸癌をはじめとする消化器悪性腫瘍を標的に、研修内容を①上部消化管及び肝臓、②下部消化管、③肝臓の 3 つに分けてグループで専門医としての研修を行っている。消化管及び肝臓系悪性疾患に対しては内視鏡を中心とした診断法の精度、効率の向上に努めつつ、早期病変に対する内視鏡的粘膜下切除術（ESD）などの治療手技の習得を目標としている。その他、消化器疾患診療に対する dynamic image の導入、H. pylori 除菌や肝炎ウイルスに対するインターフェロン療法などによる慢性炎症制御による当該領域の予後の改善、急性出血例に対する対応を含めた酸関連疾患の制御、慢性炎症性腸疾患の治療、特に治療抵抗例に対する白血球除去治療をはじめとする治療法の習得、肝臓に対する経皮的ラジオ波焼灼療法、進行癌に対する QOL に配慮した化学療法をはじめとする集学的治療などに力点を置いて研修を行っている。【消化器内科】
- 呼吸器疾患を通じて幅広い内科的考え方、手技を習得する。（呼吸器感染症を通じた感染症診療の基本の習得、肺癌治療を通じた化学療法・緩和治療の基本の習得、呼吸不全患者を通じた酸素療法・呼吸管理の基本の習得、胸部画像診断の基本の習得）
また、チームの一員として入院患者の診療にあたる。（病歴聴取や身体診察・カルテ記載、症候や検査値の解釈、検査や治療計画の作成）【呼吸器内科・アレルギー内科】
- 循環器疾患の診療を通じて心エコー図・運動負荷試験・心臓 CT・心臓 MRI・心臓カテーテル検査・薬物治療など循環器内科医として必要な基礎的な能力を身に着ける。【循環器内科】
- 精神保健指定医 7 名、日本精神神経学会専門医 5 名、同指導医 5 名が在籍し、後輩の指導環境は整っている。加えて、卒後臨床研修指導医 3 名 日本臨床神経生理学会認定医 2 名、日本医師会認定産業医 2 名、日本老年精神医学会専門医 2 名、同指導医 2 名、てんかん学会専門医 1 名、同指導医 1 名、日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学特定指導医 1 名が在籍し、関連学会での認定医などの指導にもあたっている。【神経精神科】
- 小児科学全般にわたる知識、態度、判断力及び診療技術の習得を目的とする。研修は日本小児科学会の小児科専門医を目指す医師が研修すべき教育目標として作成された「小児科医の到達目標」に則しており、小児科専門医の取得に必要な関連領域（小児外科、脳神経外科、整形外科、耳鼻科、皮膚科、眼科、産婦人科、泌尿器科、歯科口腔外科、麻酔科、リハビリ科）の知識の習得もみることができ、3 年間の研修を終了後は日本小児科学会専門医の受験資格を取得できる。当研修施設は、大学病院であるとともに和歌山県のこども病院の機能も備えており、心臓外科、腹部外科、脳神経外科等の小児外科疾患の手術症例も豊富である。また、1 次から 3 次の小児救急患者も随時受け入れており、小児のプライマリーケアから高度先端医療までのすべてを満たした研修をおこなうことが可能である。【小児科】
- 脳腫瘍、脳血管障害、機能外科、脊髄・脊椎外科などのサブスペシャリティ領域の研修が可能である。それぞれの領域において、他施設から紹介された患者に対して高度医療を 1 週間あたり 2～3 症例の頻度で行われている。【脳神経外科】
- 大学および関連研修施設における外科研修を経て、外科専門医を取得する。サブスペシャリテ

ィーとして、心臓血管外科専門医、呼吸器外科専門医、乳腺専門医としての研修を並行して行い、外科専門医取得後にこれらの専門医資格を追加取得する。2年間の初期研修の後、3年目の学内研修では、主に心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科疾患の手術および診療に参加する。この時点で比較的安全な手術については術者として執刀を行う。その後、2年間の学外研修で一般外科・消化器外科領域の研修を行う。続く6年目および7年目では再び専門領域の外科医として上級医の指導の下、術者としての執刀経験を積み、専門医資格を取得する。この2年間は大学病院または関連の認定研修施設で修練を行う。専門医取得後(8年目以降)は大学病院を含む県内の各診療拠点病院において指導的立場の医師として勤務を行う。希望により、国内の中核的病院への留学(概ね2年間)を行う者もある。専門医資格取得後5年で指導医資格の取得が可能となる。将来的には、大学病院を含む各診療拠点病院の指導医として、施設の維持を担うことになる。【第一外科】

○内視鏡外科研修(ブタ使用による腹腔鏡手術手技・開腹手術手技の研修)、顕微鏡下動脈吻合術の手術手技研修(ラット使用による微細脈管の顕微鏡下再建手技の研修)、外科・内視鏡外科手術手技研修(ドライラボ機器の使用による縫合結紮手技の研修)、臨床研究カンファレンス【第二外科】

○頸椎、胸椎、腰椎変性疾患における脊椎内視鏡手術(年一回の学内整形外科内視鏡カダバーセミナー、また全国から脊椎外科医が参加する和歌の浦低侵襲脊椎外科セミナー開催)、脊柱変形に対する各種脊柱矯正再建手術、ナビゲーション・O-armを用いた脊椎手術、各種低侵襲脊椎固定手術、マイクロサージェリーを用いた手の外科再建、肩関節・股関節・膝関節等の関節鏡視下手術、股関節・膝関節の人工関節置換術、骨軟部腫瘍の診断と治療、救急と連携した急性期四肢体幹骨折手術、脊髄髄損傷手術、手の外科外傷手術【整形外科】

○皮膚疾患を診断するには、患者さんの話に耳を傾け、皮疹をよく観察することから始める。後期研修では、患者さんの背景と皮疹から、鑑別診断を列挙する訓練を行う。視診の補助手段として、ダーモスコピーや超音波検査の手ほどきを受けることも可能です。

外来では、専門医の診察を見学し、問診のポイントや皮疹を見るコツを習得。早い人は、後期研修がスタートして、数か月で外来診察を開始。自分の目で観察して、わからないことは、専門医に訊ねて、知識を広げる。皮膚生検や簡単な外来手術は指導医のもと、積極的に行う。代表的な皮膚疾患については、初心者向けの病理組織勉強会が定期的に行われる。

当教室が重点を置いている分野の1つが、免疫アレルギー。免疫アレルギーが病態に深くかわる皮膚疾患、たとえば、膠原病や自己免疫性水疱症、薬疹について幅広い知識を修得することが可能。皮内テスト、プリックテスト、貼布試験など、アレルギー皮膚疾患の基本検査はルーチンに施行。MED、MPD、光貼布試験などの光線検査にも習熟。

治療については、全身療法、外用療法を問わず、適応、使用法副作用、禁忌の理解。全身療法では、抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗腫瘍薬、免疫抑制薬、副腎皮質ステロイド、消炎鎮痛薬、抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬のほか、レチノイドやDDS、血漿交換にも熟知。外用療法では、副腎皮質ステロイド外用剤、非ステロイド抗炎症剤、保湿剤、免疫調整外用剤、ビタミンD3外用剤、抗真菌剤、抗潰瘍剤が中心。また、皮膚外科、レーザー療法については体験する機会が多い。光線療法も随時施行。

当教室は、アトピー性皮膚炎やケミカルピーリング、血管炎、ざ瘡、じんましん、疥癬などのガイドライン作成にも積極的に関与してきた経緯があり、系統的な治療法が、比較的短期間で習得できる。

後期研修

目標：皮膚科専門医を目指す。日本皮膚科学会入会、5年間後に資格を得る。その間、学会発表、論文、講習会の所定の単位を得る。資格を満たした後は、専門医試験を受ける。

更に、皮膚悪性腫瘍と美容皮膚・レーザー指導専門医コースがある。

学ぶべき事：皮膚科全般。

専門医を取得後は、アレルギー、リウマチ膠原病、皮膚外科、皮膚腫瘍学、皮膚病理学、美容皮膚科などの専門性を徐々に習得するようにする。

コース：

- 1 年目 和医大皮膚科あるいは関連病院で上記の皮膚科臨床基礎を学ぶ。
- 2 年目 和医大皮膚科あるいは関連病院で上記の皮膚科臨床基礎を学ぶ。
- 3 年目 各人の希望を聞き教室の状況判断から、おおむね、
 - 1) 和医大皮膚科で臨床を続ける、
 - 2) 大学院（勤務しながら研究生を送る社会人大学院もいます）、
 - 3) 関連病院で研鑽、など。

その後は、外国留学、国内留学などのコースがあります。ちなみに、過去、米国コロラド大学、米国ケースウエスタンリザーブ大学、京大膠原病内科、兵庫医大リウマチ・膠原病科に留学しています（ほぼ2年間）。【皮膚科】

○和歌山県立医科大学泌尿器科後期臨床研修プログラム

(1) コースの全体像

和歌山県立医科大学附属病院泌尿器科を中心に「泌尿器科専門医」を養成するコースである。いずれの施設においても幅広く泌尿器科疾患全般の研修を受けることができる。和歌山県立医科大学附属病院においては、先進的な各種泌尿器科悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術が多いため、泌尿器科診療に必要な解剖や術式の理解が得やすいのみならず、腹腔鏡手術の基本的な手技の習得も可能である。また近年ではロボット支援前立腺全摘術も年間70例ほど施行しており最先端であるロボット支援手術について学ぶことができる。

症例は悪性腫瘍が中心であるが、排尿障害、尿路結石、女性泌尿器、腎移植なども扱っており、それぞれの領域を専門とする指導医の下で研修を受けることができる。将来的には泌尿器科専門医のみならず、がん治療認定医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、腎移植認定医などの取得も可能である。また、関連施設においては開腹手術、エンドウロロジー、ESWLなどの手術をより多く研修する機会が得られる。

(2) コースの概要

研修期間は4年間（日本泌尿器科学会の定める専門研修期間）とし、4年間のうち少なくとも1年以上は和歌山県立医科大学附属病院での研修を必須とする。臨床コースと大学院コースを設けており、後者においては研修終了時に学位が取得できる。

【総括施設】和歌山県立医科大学泌尿器科

【基幹施設】市立岸和田市民病院、市立泉佐野病院、和歌山労災病院、橋本市民病院、社会保険紀南病院

(3) コースの実績

和歌山県立医科大学泌尿器科および関連施設において研修を受け泌尿器科専門医を取得した医師はすでに49名に達しており、県内外の中心的施設において泌尿器科医療を担っている。現行のコースにおいては泌尿器科専門医試験の合格率は100%である。

(4) コースの指導状況

各施設とも日本泌尿器科学会の認定した指導医が1名以上在籍しており、若手の専門医とともに指導にあたる。泌尿器科専門医取得のために必要な要件を満たすためには、研修期間中に症例の偏りなく泌尿器科全領域の疾患および手術の研修を受けなくてはならないが、こうした観点から作成した和歌山県立医科大学泌尿器科後期研修プログラムに基づいて系統的な指導を行っている。【泌尿器科】

○1年目は、まず眼科医師として、視覚に問題のある患者との接遇を指導する。知識や検査技術の習得と、手術では介者としての参画を中心とし、原則白内障の執刀は2年目以降。さらに、この年度では手術適応の決定は指導医にゆだねる。眼科研修委員長と研修施設長によって任命された指導医がマンツーマンで指導し、担当症例の診察、治療に可能な限り同席させる。2年目から3年目では、1年目の研修内容を継続しつつ、さらに検査に習熟し、手術の適応決定ができるように指導する。手術適応の決定と患者や関係者への説明と同意の取得まで担当させ

る。これらが完了した段階で、指導医が参画して、最終決定に至らせる。ついで、症例の頻度にもよるが、指導の下に手術を開始させるが、術中合併症の対処は指導医にゆだねる。4年目以降では、3年目の研修内容を継続しつつ、上級の手術への移行をめざすが、術中合併症の対処は指導医にゆだねる。また、日々の指導医とのコミュニケーションの中で、専門医取得後の将来の専門性の方向付けのイニシエーションなども随時、織り交ぜてゆく。眼科研修医の研究成果の評価は、それぞれのプログラムの責任者となっている眼科専門医によって個別に行われた上で、眼科研修委員長と研修施設長によって実施される。評価は最終年度の日本眼科学会専門医認定試験の受験申し込みの前の4ヶ月をかけておこなう。研修が完遂されたと判断された場合、日本眼科学会専門医認定試験の受験を許可する。【眼科】

- 病棟、外来、手術場において耳鼻咽喉科疾患の主要症候および疾患に関する診察技術と知識を学ぶ。医師としての一般目標、耳鼻咽喉科における目標を下記のごとく設定し、これらを習得する。

一般目標：基本的診療法、基本的検査法、基本的手術手技（皮膚切開、血管結紮、皮下縫合、皮膚縫合）、末期医療、医療連携、診断書記載等の書類作成業務

耳鼻咽喉科における目標：検査（標準純音聴力検査、チンパノメトリー、標準語音聴力検査、自記オーディオメーター、聴性誘発反応検査、耳管機能検査、ENoG、注視眼振・頭位眼振・頭位変換眼振検査、温度眼振検査、回転眼振検査、視運動性眼振検査、視標追跡眼振、重心動揺検査、鼻腔通気度検査、基準嗅覚検査、電気味覚検査、電子鼻咽喉内視鏡検査）手術（鼓膜切開、鼓膜換気チューブ挿入術、アデノイド切除術、口蓋扁桃摘出術、頸部リンパ節摘出術、唾液腺良性腫瘍摘出術、ラリンゴマイクロスージェリー）、癌治療（手術、化学療法、放射線療法）、リハビリテーション（めまい、音声言語、嚥下障害）【耳鼻咽喉科】

- 当大学に配備された放射線機器を最大限に活用し、最新の治療、診断を患者に提供できるように臨床研究を行っている。悪性腫瘍の早期画像診断、根治的治療、緩和治療の開発のための臨床研究に努めている。画像診断領域は血管造影とCTを併用した腫瘍血管の血行動態の研究、IVR領域では新しい塞栓物質、器具の開発と腫瘍病変、大動脈瘤をはじめとする血管病変の低侵襲治療に関する研究、放射線治療領域では三次元外照射と小線源の腔内、組織内照射の臨床研究を各々行っている。【放射線科】

- 産科婦人科においては、産科婦人科専門医（8名）の指導の下、全ての領域における研修をおこなっている。サブスペシャリティに関しても産科では周産期母体胎児専門医2名、婦人科では婦人科腫瘍専門医3名の指導の下、ハイレベルな研修を行っている。県下唯一の総合周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠や分娩の豊富な症例数を有し、また婦人科癌手術症例も多数ありハイレベルな研修が可能である。（産科婦人科）

- 1年目：厚生労働省の規定に従った歯科一般の研修を中心に口腔外科の初歩を研修。
2年目：麻酔科研修4か月：麻酔科指導医のもと、種々の診療科の手術の麻酔研修。
救急部研修2か月：救急処置、救急蘇生、外傷への対応。
歯科口腔外科研修6か月：口腔疾患の診断・治療、外来小手術、全身麻酔下の手術、病棟管理、口腔ケア等。
その他：学会発表、基礎研究、臨床研究。【歯科口腔外科】

- 安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる、麻酔科及びその関連分野の診療を実践できる医師を育成する。そのために、次の4つが習得できるように麻酔科研修を行う。「①十分な麻酔領域及び麻酔科関連領域の専門知識と技量を習得 ②刻々と変わる臨床現場における適切な臨床的判断能力と問題解決能力を習得 ③医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度と習慣を習得 ④常に進歩する医療・医学に則して、生涯

を通じて研鑽を継続する向上心を習得」また、手術麻酔に加え、必要に応じてペインクリニック研修・緩和医療研修も行う。【麻酔科】

○当科では、中枢神経・末梢神経・骨格筋の病理研究を精力的に行っている。本年度はこれまでに、3例の剖検を施行した。当該症例のブレインカッティングは、科長の伊東が自ら行い、主治医のみならず医局員全員が参加するマクロ病理検討会で指導している。病理標本を用いたミクロ病理検討会も開催され、各症例の最終病理診断を行っている。特に紀伊半島に好発する紀伊ALSの病理学的検討を精力的に行っている。当科では、Hirano Bodyを発見された世界的な神経病理学者のAlbert Einstein 医科大学の平野朝雄教授を毎年5月にお招きし、平野セミナーを本学で開催している。このセミナーでは、平野教授によるブレインカッティングや神経病理セミナーが行われ、本学のみならず、学外から多数の医師が参加している。また、当科では、院内や県下の医療機関で加療中の神経筋疾患症例に対し、末梢神経や筋生検を年間20例施行している。生検は、当科の医師が自ら行い、当研究室で標本を作製し、医局員全員が参加する神経・筋病理検討会で供覧し、迅速な診断に努めている。【神経内科】

○救命救急センタースタッフが各専門科医師とともに、医師技能の基礎となる救急初療・重症患者管理について、下に示すような屋根瓦形式で卒後1～3年目の臨床研修医指導にあたっています。上級医・スタッフのバックアップ体制のもと、卒後3年目の先生は2年目に対し指導役となり、2年目はさらに1年目を指導していくシステムとなっており、臨床研修医は常に1年後の自分を想像しながらトレーニングを積んでいくことができます。【救急科】

○日本血液学会認定施設であり、幅広い血液疾患を取り扱っている。特に難治性造血腫瘍患者や造血不全患者に対して、同種造血幹細胞移植を積極的に施行している。同種造血幹細胞移植件数は月に平均2例である。日本血液学会認定指導医2人、日本血液学会認定専門医5人が常に勤務している。【血液内科】

2 研修の実績

研修医の人数	57人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
赤水 尚史	糖尿病・内分泌・代謝内科	教授	33年	
加藤 順	消化器内科	准教授	21年	下部消化管
玉井 秀幸	消化器内科	講師	23年	肝臓
井口 幹崇	消化器内科	講師	21年	上部消化管
山本 信之	呼吸器内科・アレルギー内科	教授	25年	
赤阪 隆史	循環器内科	教授	33年	
篠崎 和弘	神経精神科	教授	30年	
吉川 徳茂	小児科	教授	38年	
中尾 直之	脳神経外科	教授	28年	脳腫瘍
小倉 光博	脳神経外科	准教授	26年	機能外科
増尾 修	脳神経外科	講師	21年	脳血管障害
西岡 和哉	脳神経外科	講師	21年	脊髄・脊椎外科
藤田 浩二	脳神経外科	講師	21年	脳腫瘍
西林 宏起	脳神経外科	講師	20年	機能外科

大林 慎始	脳神経外科	助教	20年	脳腫瘍
深井 順也	脳神経外科	助教	17年	脳腫瘍
北山 真理	脳神経外科	助教	16年	脊髄・脊椎外科
八子 理恵	脳神経外科	助教	13年	脳血管障害
尾浦 正二	呼吸器乳腺外科	准教授	29年	乳腺外科専門医
西村 好晴	心臓血管外科	講師	26年	心臓血管外科専門医
吉増 達也	呼吸器乳腺外科	講師	25年	呼吸器外科専門医
打田 俊司	心臓血管外科	講師	24年	心臓血管外科専門医
山上裕機	消化器・内分泌 ・小児外科	教授	32年	
瀧藤克也	消化器・内分泌 ・小児外科	病院教授	29年	
窪田昭男	消化器・内分泌 ・小児外科	特命教授	38年	
堀田 司	消化器・内分泌 ・小児外科	准教授	25年	
中森幹人	消化器・内分泌 ・小児外科	准教授	21年	
川井 学	消化器・内分泌 ・小児外科	講師	19年	
吉田 宗人	整形外科	教授	31年	
古川 福美	皮膚科	教授	36年	
原 勲	泌尿器科	教授	29年	
雑賀 司珠也	眼科	教授	26年	
保富 宗城	耳鼻咽喉科	准教授	23年	
佐藤守男	放射線科	教授	38年	
井篁一彦	産科婦人科	教授	27年	
藤田茂之	歯科口腔外科	教授	33年	
川股 知之	麻酔科	教授	24年	
伊東 秀文	神経内科	教授	29年	
重松 隆	腎臓内科	教授	29年	血液浄化センター長 兼務
加藤 正哉	救急集中治療部	教授	32年	
園木 孝志	血液内科	教授	26年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【看護部】

- | | |
|-------------|-------------------------|
| ・研修の主な内容 | 別紙 1 「平成25年度継続教育計画」 |
| | 別紙 2 「平成25年度補助員研修」 のとおり |
| ・研修の期間・実施回数 | 別紙 3 「平成25年度教育実績」 |
| | 別紙 2 「平成25年度補助員研修」 のとおり |
| ・研修の参加人数 | 別紙 3 「平成25年度教育実績」 |
| | 別紙 2 「平成25年度補助員研修」 のとおり |

【藥劑部】

- ・研修の主な内容：「抗凝固剤・降圧剤に関する知識」、「インスリン・抗がん剤に関する知識」
- （対象：医療クラーク）
- ・研修の期間・実施回数：平成26年8月26日、27日　各60分
 - ・研修の参加人数：各々25名

【中央放射線部】

- ・研修の主な内容：医療被ばくとMR I 検査を安全に行うために
- ・研修の期間・実施回数：1 時間・1 回
- ・研修の参加人数：5 1 名

【リハビリテーション部】

- ・リハビリテーション科特別講演会

「Rehabilitation education and amputee athletic training」

- ・カリフォルニア大学サンフランシスコ校 リハビリテーション科 長尾正人 先生

平成25年7月29日 18時00分～19時30分 療法士全員（24名）

「The Journey to London and Beyond: Research Strategies and Future Priorities.
」

The Peter Harrison Centre for Disability Sport Loughborough University

Dr. Vicky Tolfrey

平成25年7月23日 18時00分～19時30分 療法士全員（24名）

「Physiological mechanism for wheelchair runner(SCI)-The differences between
wheelchair runner and able bodied runner」

The Peter Harrison Centre for Disability Sport Loughborough University Dr.

Christof Leicht Research assistant in Sport Science

平成25年6月10日 18時00分～19時30分 療法士全員（24名）

- ・リハビリテーション部研修会

「頸下浸水 Head-out water immersion (HOI): A useful tool for investigating fluid
dynamic functions in human」

- ・産業医科大学 名誉教授 白木 啓三 先生

平成25年5月13日 18時00分～19時00分 療法士全員（24名）

「アメリカのリハ事情 -PTからの視点-」

- ・マサチューセッツ総合病院大学院 Doctor of Physical Therapy 鮫島総史 先生

平成25年12月17日 18時00分～19時00分 療法士全員（24名）

- ・第18回リハビリテーション医学教室大学院研究内容検討会

平成25年8月30日 19時30分～20時30分 （20名）

- ・第19回リハビリテーション医学教室大学院研究内容検討会

平成25年10月11日 19時00分～20時30分 (20名)

【中央検査部】

- ・研修の主な内容：新しい臨床検査や検査測定機器の有用性の検討結果、各種疾患と検査方法など
- ・研修の期間・実施回数：平成25年度・34回（1回30分）
- ・研修の参加人数：延べ701人（平均20.6人/回）

【病態栄養治療部】

- ・研修内容：NST勉強会：栄養管理の重要性を認識し、適切な栄養処方を行うための専門的な知識と技術の習得を目的とする
- ・研修期間及び実施回数：平成25年4月～26年2月 10回
- ・参加人数：331名

【臨床工学センター】

- ・研修の主な内容：看護師に対して人工呼吸器及び循環補助装置の安全管理及び使用方法
- ・研修の期間・実施回数：夕方約1時間程度（病棟の勤務状況による） 10回
- ・研修の参加人数：8～15人程度

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【薬剤部】

- ・研修内容：採用医薬品の研修
- ・研修期間及び実施回数：H25.4～H26.9.16 62回
- ・参加人数：延べ960人

【中央放射線部】

- ・研修の主な内容：放射線機器を安全に使用する注意点
- ・研修の期間・実施回数：1時間・15回
- ・研修の参加人数：述べ70名

【リハビリテーション部】

週間業務

- ・リハビリテーション科朝回診 毎日 7時40分～8時20分 療法士8名程度
- ・新患検討会 毎日 17時30分～18時30分 療法士8名程度
- ・英文抄読会 毎週火曜日 8時30分～9時 療法士全員（24名）
- ・画像カンファレンス 毎週火曜日 12時30分～13時 療法士全員（24名）
- ・訓練室回診 毎週火曜日 16時15分～17時 療法士全員（24名）
- ・リハ科入院患者検討会 毎週火曜日 18時30分～19時30分 療法士全員（24名）
- ・ランチョンレッスン 毎週水曜日 12時30分～13時 療法士全員（24名）
- ・症例検討会 毎週木曜日 18時30分～19時 療法士全員（24名）

平成25年度リハビリテーション科クルズス

- ・「リハ科における業務・教育体制の確立 ―臨床に根差した教育・研究を目指して―」

リハビリテーション部療法士長 上西啓裕

平成25年4月10日 18時30分～19時30分 療法士全員（24名）

- ・「リスクマネジメント ―緊急時対応とリスク管理―」

リハビリテーション科准教授 中村 健

平成25年4月23日 18時30分～19時30分 療法士全員（24名）

- ・「リハビリテーション科の理念 ―医学としてのリハビリテーション―」

リハビリテーション科教授 田島文博

平成25年4月25日 18時30分～19時30分 療法士全員（24名）

- ・「バルーンカテーテル」

平成25年5月27日 18時00分～18時30分 療法士全員（24名）

- ・「人工内耳のリハビリテーション」

リハビリテーション科 言語聴覚士 沖屋 舞

平成25年5月27日 18時30分～19時30分 療法士全員（24名）

- ・「リハビリテーションを実施するうえで必要な呼吸・循環生理学の知識」

リハビリテーション科講師 幸田 剣

平成25年6月3日 18時30分～19時30分 療法士全員（24名）

【臨床工学センター】

- ・研修の主な内容：臨床工学センター内で新規購入した新しい機器に対しての研修
- ・研修の期間・実施回数：随時
- ・研修の参加人数：7～9名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

【看護部】

- ・研修の主な内容：別紙3「平成25年度他医療機関への講師派遣一覧」のとおり
- ・研修の期間・実施回数：別紙3「平成25年度他医療機関への講師派遣一覧」のとおり
- ・研修の参加人数：他医療機関主催のため不明

【薬剤部】

- ・研修内容：「NST専門療法士研修講義」中心静脈栄養について
- ・研修期間及び実施回数：H26. 9. 16、H26. 10. 14

- ・参加人数：栄養士2名

【中央放射線部】

- ・研修の主な内容：C T装置の逐次近似法をについて・F P Dの使用経験・IVRに必要な撮影技術
- ・研修の期間・実施回数：2時間・各1回
- ・研修の参加人数：54名・37名・100名

【リハビリテーション部】

- ・リハビリテーション科特別講演会
「ロコモティブシンドロームにおける疾患概念の操作的定義」
国立障害者リハビリテーションセンター 病院長 赤居正美 先生
平成25年4月13日 16時15分～17時15分（45名）
- ・平成25年度 第1回障害者スポーツ医科学研究拠点シンポジウム
平成25年12月15日 15時00分～17時00分
- ・「リハビリテーション実践 ー積極的な早期リハを考えるー」
平成25年12月22日 9時00分～16時00分
医師2名，PT75名，OT15名，ST8名，P04名，一般5名 計109名
- ・「平成25年度がんのリハビリテーション研修会in和歌山」
平成26年2月22日～23日 9時00分～16時00分
16施設，医師16名，看護師16名，療法士32名 計64名
- ・第3回 和歌山リハビリテーション医学研究会
平成26年3月1日 14時00分～17時00分 計39名

【中央検査部】

- ・研修の主な内容：NST（栄養サポートチーム）の活動の一環として、臨床検査技師の立場から低栄養状態の患者への関わりについての講義と栄養状態把握のための身体測定についての実技研修
- ・研修の期間・実施回数：1回/年
- ・研修の参加人数：3人

【病態栄養治療部】

- ・研修内容
和歌山栄養療法研究会の開催：県内外の医療従事者を集め各施設からの栄養療法等の研究
・成果を発表、参加者による討論会と栄養療法等をテーマにした記念講演を実施
- ・開催日
平成25年9月28日 土曜日
平成26年3月8日 土曜日
- ・参加人数
9/28 100名
3/8 100名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告(平成25年度実績)においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

平成25年度 継続教育計画

別紙1

育成センター：高度医療人育成センター 生涯センター：生涯研修センター

SBOは研修で到達すること、研修後に到達することを含む

看護技術研修のSBOは、新人看護職員看護技術研修ガイドをふまえて実施し到達をめざす

	レベル研修 のねらい	研修名	受講条件 定員(条件ありの場合記載)	開催予定	開催場所	講師	主な方法	G10(一般目標)	SBO(行動目標)	ふりかえりシート の種類	事後課題 レポート (ある場合のみ記載)
新人 (新人看護職員臨床研修)	専門職としての基礎的知識・技術・態度を学ぶ 部署の方針に基づいて安全な看護の実践をめざす	新規採用職員研修	新規採用看護職員	4/1(月) 8:45～17:30 4/2(火) 8:45～17:30 4/3(水) 13:00～17:30 4/4(木) 13:00～17:30	4/1 講堂 4/2 基礎教育棟 4/3.4 生涯センター3階	別紙参照	講義	組織の機能と役割を知り、組織が目指していること、看護職の役割を理解する	★組織の機能と役割が述べることができる	なし	
		新規採用看護職員宿泊研修		4/12(金)13:45～ 4/13(土)12:00	休暇村紀州加太	IOF認定コーチ 渡辺照子	講義 ロールプレイ グループ討議		★①なりたい看護師像(自分の目標)を述べることができる ★②1年後の目標とそための具体的な取り組みを計画書に記載できる	別途提示あり	
		看護倫理	新人看護職員 (新規学卒)	7/16(火) 16:00～17:30	育成センター5階	精神専門看護師 吉田裕紀子	講義	看護の倫理綱領について理解する	★職業人としての自覚をもち、倫理に基づいて行動する	なし	
		看護記録	新人看護職員 (新規学卒)	4/30(火) 16:00～17:30	育成センター5階	看護記録委員	講義	看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に記載する方法がわかる	★①看護記録の目的を述べることができる ★②看護記録記載基準を理解し、基準に沿った看護記録を記載できる	なし	
		看護必要度	新人看護職員 (経験者は必要に応じる)	6月	部署		e-learning	看護必要度について理解し、評価方法を習得する	★看護必要度を基準に沿って正しく評価できる	なし	
		BLS,AED	新規採用看護職員	12/16(1回6Gで30人) 16:00～17:30	育成センター2階	インストラクターNS 救急救命士	e-learning 実技	救命救急の基本的な知識と技術を習得する	★①成人に対する一時救命処置が実施できる ★②AEDを使用できる		
				1/16(1回6Gで30人) 16:00～17:30							
				2/5(1回6Gで30人) 16:00～17:30							
		看護技術(安全管理)	新人看護職員 (新規学卒)	4月	部署	教育担当者ほか 安全管理リンクNS	e-learning 実技	根拠に基づいた安全確保の技術を習得する	★①施設における医療安全管理体制を知っている ★②医療安全に関する院内マニュアルを知っている ★③転倒転落防止策が実施できる	なし	
		看護技術(感染管理)	新人看護職員 (新規学卒)	4月	部署	教育担当者ほか 感染管理リンクNS	e-learning 実技	根拠に基づいた感染防止の技術を習得する	★①衛生的な手洗いができる ★②必要な防護用具が選択でき、正しく着脱できる ★③医療廃棄物の規定に沿った適切な取り扱いができる(分別処理ができる)	なし	
		看護技術 (安楽な体位、褥瘡予防)	新人看護職員 (新規学卒)	5月	部署	教育委員 教育担当者	e-learning 実技	根拠に基づいた褥瘡の予防技術を習得する	★①褥瘡予防に適切なポジショニングを理解し、実施できる ★②安楽な体位の保持ができる	なし	
		看護技術(静脈注射)	新規採用看護職員	5月	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning 実技	静脈注射実施に必要な知識・技術を習得する	★①静脈注射における感染予防と安全対策について述べられる ★②注意すべき薬剤や投与時の注意事項が述べられる ★③静脈注射の基本知識(解剖生理)について述べられる ★④合併症・副作用の早期発見と早期対応の方法が述べられる ★⑤手順に基づき、ピギーバッグ法とヘパリンロック法が実施できる ★⑥誤薬防止の手順(5R)に沿った与薬ができる ★⑦患者誤認防止策が実施できる ★⑧スタンダードプリコーションが実施できる ★⑨無菌操作が実施できる ★⑩医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる ★⑪針刺し事故防止対策が実施できる	なし	
		看護技術(血糖測定)	新人看護職員 (新規学卒)	4月	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning 実技	根拠に基づいた安全な血糖測定の技術を習得する	★①正常な血糖値、低血糖値、低血糖症状がわかる ★②手順に基づき血糖測定が実施できる ★③患者誤認防止策が実施できる ★④スタンダードプリコーションが実施できる ★⑤必要な防護用具が選択できる ★⑥医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる ★⑦針刺し事故防止策が実施できる	なし	
		看護技術(インスリン製剤取り扱い)	新人看護職員 (新規学卒)	5月以降	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning 実技	インスリン製剤の取り扱いについて必要な知識と技術を習得する	★①インスリン製剤の種類と用法が言える ★②インスリン注射が手順通り実施できる ★③インスリンの作用と副作用を理解し、観察ができる ★④誤薬防止の手順(5R)に沿った与薬ができる ★⑤患者誤認防止策が実施できる ★⑥スタンダードプリコーションが実施できる ★⑦無菌操作が実施できる ★⑧医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる ★⑨針刺し事故防止対策が実施できる	なし	
		看護技術(経管栄養法)	新人看護職員 (新規学卒)	5月以降	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning 実技	根拠に基づいた安全な経管栄養の技術を習得する	★①手順に基づき経管栄養法が実施できる ★②患者誤認防止策が実施できる ★③スタンダードプリコーションが実施できる ★④医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる	なし	

平成25年度 継続教育計画

別紙1

育成センター:高度医療人育成センター 生涯センター:生涯研修センター

SBOは研修で到達すること、研修後に到達することを含む

看護技術研修のSBOは、新人看護職員看護技術研修ガイドをふまえて実施し到達をめざす

	レベル研修 のねらい	研修名	受講条件 定員(条件ありの場合記載)	開催予定	開催場所	講師	主な方法	G10(一般目標)	SBO(行動目標)	ふりかえりシート の種類	事後課題 レポート (ある場合のみ記載)
新人(新人看護職員臨床研修)	専門職としての基礎的知識・技術・態度を学ぶ 部署の方針に基づいて安全な看護の実践をめざす	看護技術 (輸血、血液製剤の取り扱い)	新人看護職員 (新規学卒)	6月以降	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning デモンストレーション	輸血、血液製剤の取り扱いに必要な知識と技術を習得する	★①輸血、血液製剤の請求・受領についてルールを理解し、実施できる ★②輸血、血液製剤の特徴に応じた保管場所・方法が分かり、実施できる ★③輸血の準備、介助、および輸血中と輸血後の観察ができる ★④患者誤認防止策が実施できる ★⑤スタンダードプリコーションが実施できる ★⑥無菌操作が実施できる ★⑦医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる ★⑧針刺し事故防止対策が実施できる	なし	
		看護技術 (麻薬・毒薬・劇薬・向精神薬 取り扱い)	新人看護職員 (新規学卒)	7月以降	部署	教育担当者ほか部署指導者	e-learning デモンストレーション	麻薬・毒薬・劇薬・向精神薬の取り扱いに必要な知識と技術を習得する	★①薬剤の請求・受領についてルールを理解し、実施できる ★②薬剤の特徴に応じた保管場所・方法が分かり、実施できる ★③麻薬の主作用と副作用について観察できる(状況的に観察が困難な場合:～について言える)	なし	
		看護技術 (フィジカルアセスメント1)	新人看護職員 (新規学卒)	1回目 4/25(木) 2回目 5/9(木) 3回目 5/16(木) 4回目 5/22(水) 16:00～17:30	育成センター5階	教育委員 教育担当者	e-learning 実技	根拠に基づいた観察の技術を習得する	★①バイタルサイン(呼吸、脈拍、体温、血圧)を正しく測定できる ★②呼吸、脈拍、体温、血圧の正常・異常がわかる	なし	
		看護技術 (静脈血採血)	新人看護職員 (新規学卒)		育成センター2階	教育委員 教育担当者	e-learning 実技	根拠に基づいた安全な静脈血採血の知識と技術を習得する	★①手順に基づき静脈血採血が実施できる ★②採血後の検体の取り扱いができる ★③患者誤認防止策が実施できる ★④スタンダードプリコーションが実施できる ★⑤必要な防護用具が選択できる ★⑥無菌操作が実施できる ★⑦医療廃棄物の規定に沿った分別処理ができる ★⑧針刺し事故防止策が実施できる	なし	
		看護技術(輸液ポンプ操作)	新人看護職員 (新規学卒)		育成センター2階	テルモ(株)	e-learning 実技	輸液ポンプとシリンジポンプの知識と技術を習得する	★①手順に基づき輸液ポンプの操作と管理ができる ★②手順に基づきシリンジポンプの操作と管理ができる	なし	
		看護技術(車いすへの移乗と移送)	新人看護職員 (新規学卒)		育成センター2階	教育委員 教育担当者	e-learning 実技	患者の身体状態に応じた、安全な車椅子の移送技術を習得する	★①車椅子への移乗が安全にできる ★②車椅子を使用し、安全に目的の場所に移送できる	なし	
		看護技術 (フィジカルアセスメント2)	新人看護職員 (新規学卒)	9/13(金) 16:00～17:30	生涯センター3階	集中ケア認定看護師 泉仁美	講義	観察により得た情報をアセスメントし、必要な看護ケアを考えられる	★①系統的かつ客観的事実の情報収集ができる ★②集められた情報から正しくアセスメントできる ★③必要な看護ケアを考えることができる	共通	
				9/19(木) 16:00～17:30	生涯センター3階						
		夜勤研修	新人看護職員 (新規学卒)	5/7(火)～ 準夜1回、深夜1回	部署			夜勤看護師の実践している看護を見学し、夜勤時の看護の特徴を理解する	♥夜間の看護の特徴を日勤との違いから述べるができる (患者の特徴、チームワーク、安全管理)	共通	
		ローテーション研修	新人看護職員 (新規学卒)	9/9(月)～2/14(金)の うち、ひとり2週間	部署			部署で経験できない看護技術を経験し、基本的な看護実践能力を養う	♠部署で経験できない看護技術を見学、あるいは実施できる	共通 (2クール終了後)	
		メンバーシップⅠ	新人看護職員 (新規学卒)	7/22(月) 15:00～17:30	育成センター5階	教育委員 教育担当者	グループ討議	看護チームの一員として役割を理解し行動できる	★メンバーシップを発揮するために、自分ができることを具体化し実施できる	共通	
				7/31(水) 15:00～17:30	育成センター5階						
		メンバーシップⅡ	新人看護職員 (新規学卒)	12/3(火) 15:30～17:30	生涯センター3階	教育委員 教育担当者	グループ討議	役割や看護実践の到達度を認識できる	♠①できるようになったことを確認できる ♠♥②1年目の終了時に自分がどうなっていたかを再確認できる	共通	
				12/4(水) 15:30～17:30	生涯センター3階						
		メンバーシップⅢ	新人看護職員 (新規学卒)	2/12(水) 16:00～17:30	生涯センター3階	教育委員 教育担当者	グループ討議	1年間の看護の実践を振り返り、次年度にむけて自己の課題を言語化できる	♥①研修で気づき、自分がこれから看護や業務を行ううえで役立てられることを述べることができる ★②社会人として、専門職業人(看護者)として課題とすることを2年目の目標管理に計画立案できる	メンバーシップⅢ	
				2/13(木) 16:00～17:30	生涯センター3階						
		看護記録 フォーカスチャータリング	新規採用看護職員 (経験者は必要に応じる)	7/18(木) 16:00～17:30	育成センター5階	看護記録委員	講義 グループ討議	フォーカスチャータリングの基本について理解し、フォーカスチャータリングを記載する	♥フォーカスチャータリングの構成要素を述べるができる ★指導を受けながらフォーカスコラムが記載できる ★指導を受けながらDARが記載できる	共通	
				7/19(金) 16:00～17:30	育成センター5階						

平成25年度 継続教育計画

別紙1

SBOは研修で到達すること、研修後に到達することを含む

看護技術研修のSBOは、新人看護職員看護技術研修ガイドをふまえて実施し到達をめざす

	レベル研修 のねらい	研修名	受講条件 定員(条件ありの場合記載)	開催予定	開催場所	講師	主な方法	G10(一般目標)	SBO(行動目標)	ふりかえりシート の種類	事後課題 レポート (ある場合のみ記載)
レベルなしⅠ保有者	役割を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得するとともに、自分が行っている看護を振り返ることができる	メンバーシップ研修	2年目看護師(必須)	6/12(水) 16:00～17:30	生涯センター3階	教育委員 教育担当者	グループ討議	部署での役割遂行や自立した看護実践に向けて行動できる	★♥自立して看護を実践していくために、自己の現状・課題を整理できる ★自分がとるべき行動にしたがって実践できる	共通	
				6/14(金) 16:00～17:30	生涯センター3階						
		看護を語ろう	レベルなし	9/2(月) 16:00～17:30	生涯センター3階	教育委員 教育担当者	グループ討議	実践してきた看護を言語化し、自分が大切にしている看護を明確にする	▲①部署のなかで自分がおこなっている看護を話すことができ、他の看護師の看護への思いを聴くことができる ★②実践してきた看護を意味づけし、語るすることができる	看護を語ろう	心に残った看護場面(ラダー申請の実践レポートと同様でもよい)
				9/3(火) 16:00～17:30	生涯センター3階						
		がん看護	レベルⅠ保有者でがん看護を1年以上実践している者	1回目 5/31(金) 16:15～17:30	育成センター5階	がん看護専門看護師 温井由美 がんに関する認定看護師 石徹白しのぶ 櫻山美佳 三坂里実 田中敦子	講義 演習	がん看護の特殊性、治療とケアの概要を理解し、がん看護の実践能力を養う	♥がんの病態、治療の概要、がん患者の心理過程、倫理的問題を理解し、がん患者のケアのありかたを考えることができる ♥手術療法における意思決定の支援方法を理解し、意思決定の支援を考えることができる ♥放射線療法・化学療法の有害事象を理解し、患者のセルフケア能力を高めるケアを考えることができる ♥がん性疼痛のメカニズムを理解し、痛みのある患者のケアを考えることができる ♥がん患者と家族の心理過程を理解し、精神面の支援を考えることができる ★受持ちがん患者の看護計画を立案し、看護を実施し評価することができる	がん看護 (各回終了ごと)	看護過程をまとめた事例(A42枚以内)
				2回目 6/21(金) 16:15～17:30	生涯センター3階						
				3回目 7/29(月) 16:15～17:30	育成センター5階						
				4回目 8/26(月) 16:15～17:30	育成センター5階						
				5回目 9/17(火) 16:15～17:30	生涯センター3階						
		クリティカルケア入門	レベルⅠ保有者 (max48人)	1回目 10/10(木)10/11(金)AM 1チーム3人90分×16クール	育成センター2階	IMI 教育委員	実技	患者急変時のアセスメント能力、臨床判断能力、看護実践能力を養う	▲①フィジカルアセスメント技術を活用し、患者におこっている病態をアセスメントできる ▲②アセスメントから看護問題を考え、看護介入できる ▲③チームが効果的に機能するために必要なコミュニケーション、リーダーシップ、メンバーシップについて気づくことができる ▲④急変時にも院内で定められたルールにのっとり医療安全行動がとれる	共通 (各回終了ごと)	
				2回目 1/30(木)1/31(金)AM 1チーム3人90分×16クール							
		人材育成入門	平成25年度にレベルⅡ申請予定者で院内外の教育・臨床指導に関する研修未受講者	1回目 9/11(水) 14:30～17:30	生涯センター3階	和歌山大教育学部 教授 竹田真理子	講義 グループ討議	教育心理学の視点から、人材育成に必要な知識(教育原理)を学ぶ アサーティブなコミュニケーション技術を習得する	♥①学んだことの中から何がわかったか整理できる ★②後輩に関心を持って、自分から声をかけて支援できる ★③対象の個性を理解できる	人材育成入門 (学びは各回終了ごと)	
				2回目 10/24(木) 14:30～17:30	生涯センター3階	和歌山大教育学部 教授 竹田真理子	講義 グループ討議				
				3回目 11/15(金) 14:30～17:30	生涯センター3階	臨床心理士 坂田真穂	講義				

平成25年度 継続教育計画

別紙1

SBOは研修で到達すること、研修後に到達することを含む

看護技術研修のSBOは、新人看護職員看護技術研修ガイドをふまえて実施し到達をめざす

育成センター：高度医療人育成センター 生涯センター：生涯研修センター

	レベル研修 のねらい	研修名	受講条件 定員(条件ありの場合 合記載)	開催予定	開催場所	講師	主な方法	G10(一般目標)	SBO(行動目標)	ふりかえりシート の種類	事後課題 レポート (ある場合 のみ記載)
Ⅱ 保有者	役割を遂行する ために必要な知識・ 技術・態度の習得 と向上、および今 後のキャリア形成 の基礎づくりをする	私の未来デザイン	Ⅱ 保有者かつ看護師経験 10年未満	10/15(火) 16:00～17:30	生涯センター3階	スタッフナース 各部署 教育担当者	講演 グループ討議	自分のキャリア・アンカー(価値観の明確化)を確認 し、今後のキャリアデザインについて考え、挑戦す る	◆①看護師としてキャリアをデザインしてきているプロセスを言語化できる ▼②自分のキャリア・アンカーがわかり今後の課題が見出せる	共通	
		“ぶれ”ないために -論理的思考を学ぼう-	レベルⅡ 保有者	1回目 12/20(金) 14:30～17:30	生涯センター3階	愛媛大学医学部付属病院 医療福祉支援センター長 榎本真幸	講義 グループ討議	問題解決のための論理的思考を身につける	◆①集団のなかで、自分の意見を述べ、他者の意見を聞くことができる ◆★②目的を見失わずに論点整理ができる	共通 (2回終了後)	
				2回目 2/3(月) 14:30～17:30	生涯センター3階						
		看護研究をしようⅠ	Ⅱ 保有者 * 2回目(文献検索)は全 レベル対象の公開講座	1回目 6/20(木) 15:30～17:30	生涯センター3階	保健看護学部教授 森岡郁晴	講義 グループ討議	研究のプロセスを体験し、研究計画書を作成する 能力を養う	◆①文献検索の方法がわかる ◆②研究計画書の書き方がわかる	看護研究をしようⅠ・ Ⅱ (4回終了後)	
				2回目 7/11(木) 15:30～17:30	育成センター1階	保健看護学部 志茂淳子					
				3回目 11/25(月) 14:30～17:30	育成センター5階	保健看護学部教授 森岡郁晴					
				4回目 12/17(火) 14:30～17:30	生涯センター3階						
		魅力的な職場づくりⅠ -やりがいとリーダーシップ-	Ⅱ 保有者	1回目 5/29(水) 14:30～17:30	育成センター5階	元三木市民病院看護部長 多羅尾美智代	講義	組織のなかで自分の立場を理解し、主体的にリー ダーシップをとるための能力を養う	▼①魅力的な職場とはどのような職場かを考えられる ▼②そのために自分がとるべき行動を述べることができる ▼◆③自分がとるべき行動にしたがって持続的に実践できる	魅力的な職場づくり Ⅰ 1回目 魅力的な職場づくり Ⅰ 2回目	
				2回目 1/21(火) 16:00～17:30	育成センター5階	教育委員 教育担当者	グループ討議				
Ⅲ 保有者	自己教育力に基 づきキャリアアップ をはかる	看護研究をしようⅡ	Ⅲ 保有者(自己の研究の 成果をまとめたものを提 出)または平成25年度院 内研究発表を予定してい る者	12/17(火) 14:30～17:30	生涯センター3階	保健看護学部教授 森岡郁晴	グループ討議	自分が取り組んでいる研究をクリティークする能力 を養う	◆①研究した内容の批評吟味ができる ▼②グループ討議の内容をふまえて、自己の研究を批評吟味(クリティーク) できる	看護研究をしようⅠ・ Ⅱ	
		魅力的な職場づくりⅡ -人的資源管理に焦点をあてる-	Ⅲ 保有者または チームリーダーの経験者	9/() 14:30～17:30		和歌山大学経済学部 准教授 厨子直之	講義 グループ討議	人的資源を活用し、部署の力を高めるための能力 を養う	★スタッフのモチベーションを高める仕組みを理解し、実践できる	共通	

平成25年度 継続教育計画

別紙1

SBOは研修で到達すること、研修後に到達することを含む

看護技術研修のSBOは、新人看護職員看護技術研修ガイドをふまえて実施し到達をめざす

レベル研修 のねらい		研修名	受講条件 定員(条件ありの場合記載)	開催予定	開催場所	講師	主な方法	GIO(一般目標)	SBO(行動目標)	ふりかえりシートの種類	事後課題 レポート (ある場合のみ記載)
役割別	組織の中で与えられた役割を果たす	チューター研修	チューター(必須)	1回目6/17(月) 15:30～17:30	生涯センター3階	教育委員 教育担当者	グループ討議	チューターが指導者としての役割を遂行できる能力を養う	♥新人看護職員研修における指導上の問題や困難、不安・負担感を軽減する解決方法を見出せる	なし	
				1回目6/18(火) 15:30～17:30	生涯センター3階						
				2回目9/30(月) 15:30～17:30	生涯センター3階	教育委員 教育担当者	グループ討議				
				2回目10/2(水) 15:30～17:30	生涯センター3階						
				3回目2/14(金) 16:00～17:30	育成センター5階	教育委員 教育担当者	報告会 グループ討議				
				3回目2/17(月) 16:00～17:30	生涯センター3階						
		チューター準備研修	平成26年度チューター 予定者	3/3(月) 13:30～17:15	生涯センター3階	新人看護職員研修責任者 ICF認定コーチ 渡辺照子	講義 ロールプレイ グループ討議	新人看護職員研修制度と指導者役割を理解する 新人看護職員研修におけるチューターの役割を遂行できる能力を養う	♥①新人看護職員研修ガイドラインの背景にある新人看護職員をめぐる現状と課題が述べられる ♥②当院看護部の新人看護職員研修制度、チューターの役割を説明できる ♥③新人看護職員を育てるための姿勢や態度、コミュニケーション方法について具体策が述べられる	共通	
				3/4(火) 8:45～12:30	生涯センター3階						
		退院支援・退院調整	レベルⅢ保有者または チームリーダー役割を担っている者 *部署から原則2名	1回目 9/6(金)時間外 全職員対象の特別研修と合同	臨床講堂Ⅰ(予定)	在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子	講義	患者が安心して生活の場に戻るために必要な退院支援調整能力を養う	♥退院支援の基本的な考え方を理解する ♥自部署の退院調整に関する課題を明確にし、解決に向けて取り組むことができる	退院支援・退院調整各回終了ごと(特別研修除)	
				2回目 10/1(火)16:00～17:30	生涯センター3階	地域連携室 福岡有里子	講義				
				3回目 12/11(水)16:00～17:30	育成センター5階	地域連携室 福岡有里子	講義				
				4回目 平成26年1月25日(土)午後 全職員対象の特別研修と合同	臨床講堂Ⅰ	在宅ケア移行支援研究所 宇都宮宏子	講義				
		副看護師長研修	副看護師長(必須)	8/11(日) 13:00～17:00	育成センター5階大研修室	愛媛大学医学部付属病院 医療福祉支援センター長 榎本真幸	講義 グループ討議	副看護師長としてチーム活動を活性化させるためのロールモデルとなり実践する能力を養う	課題について論点整理ができる 副看護師長として部署で取り組む課題を整理できる 整理した課題およびロールモデルとなり実践したプロセスを報告できる	共通	
				1/14(火) 1/28(火) 15:30～17:30	育成センター4階オス キールーム	看護師長	報告会				
		看護師長研修	看護師長(必須)	11/13(水) 14:00～17:30	大会議室	文部科学省高等教育局医学教育課 市村 尚子	講義 グループ討議	大学附属病院の看護師長としての管理能力を養う	大学附属病院の果たすべき役割と現状を知り、当院における課題を整理するとともに、部署における課題を達成するための目標を明確にできる	共通	
専門 コース	専門職としてのスキルアップをはかり、組織全体のブラッシュアップのために力を発揮する	クリティカルケアコース	ラダーレベルⅡ保有者 研修の学びを部署の問題決につなげられる者 学びを部署で伝達できる者 最少催行人数10人	1回/月 5回(各月) 17:30～19:00	6/27(木)育成センター2階	認定看護師 田村直子 泉 仁美 高野裕子	講義 実技	クリティカルケアの専門的知識を学び、指導的立場がとれ、実践できる能力を高める	★①患者の状態を適切にアセスメントできる ★②患者の変化に気づき、適切な対応ができる ★③研修で習得した知識を部署のスタッフに指導できる	共通 (コース終了後)	
					8/29(木)育成センター2階						
					10/31(木)育成センター2階						
					12/26(木)育成センター2階						
					2/21(金)育成センター2階						
		人材育成コース	人材育成入門研修 受講修了者またはラダーレベルⅡ保有者 最少催行人数10人	1回/月 5回(後期) 17:30～19:00	10/17(木)生涯センター3階	和大教育学部教授 竹田真理子	講義	学生、スタッフ個々に応じた教育的かわりができる	★①後輩育成に積極的にかかわることができる ★②自己の経験と学びを統合し、指導の方向性を見出すことができる ★③見出した指導の方向性をもとに実践できる	共通 (コース終了後)	
					11/29(金)大会議室	臨床心理士 坂田真穂	講義				
					12/19(木)大会議室	教育委員会	グループ討議				
					1/23(木)育成センター5階	教育委員会	グループ討議				
					2/20(木)育成センター5階	教育委員会	グループ討議				

平成25年度 メンタルヘルス研修

別紙1

育成センター：高度医療人育成センター 生涯センター：地域医療・生涯研修センター

	研修名	受講条件 定員(制限ありの場合記載)	開催予定	開催場所	講師	主な方法	G10(一般目標)	SB0(行動目標)
新人	メンタルヘルスⅠ	新人看護職員	4/22(月) 16:30～17:30	育成センター5階 大研修室	臨床心理士 坂田真穂	講義	社会人として働くためのメンタルヘルス対策を理解する	
	メンタルヘルスⅡ	新人看護職員	6/3(月) 16:00～17:30	育成センター5階 大研修室	精神リエゾン看護師 吉田裕紀子 精神科認定NS 西山涼子	講義 グループ討議	職場に適応していくための対処法を習得する	自分のストレスとストレス反応に気づくことができる ストレスに対する自分の対処法について具体例を述べるができる
	メンタルヘルスⅢ	新人看護職員	11/6(水) 16:30～17:30 11/8(金) 16:30～17:30	生涯研修センター 3階 生涯研修センター3階	精神リエゾン看護師 吉田裕紀子 精神科認定NS 西山涼子	講義 グループ討議	リラクゼーション方法を習得する	

平成25年度看護補助員研修

別紙2

GIO：医療チームの一員として看護補助員業務を理解し、自分の役割をはたす

- SBO： 1. 看護補助員の業務と責任の範囲を述べることができる
2. 患者・家族の気持ちに配慮し対応できる

		開催場所	講師	主な方法	内容	参加人数
第一回	1回目 6/24(月) 16:30～17:30	看護部会議室	業務担当副看護師長	講義	1. 医療チームの概要および病院の機能と組織理解 2. 医療チームおよび看護チームの一員として看護補助業務の理解 3. 個人情報保護・守秘義務	17
	2回目 6/27(木) 16:30～17:30	看護部会議室				18
	3回目 7/1(月) 16:30～17:30	看護部会議室				15
第二回	1回目 10/11(金) 16:30～17:30	大会議室	業務担当副看護師長	講義	1. 看護補助業務を遂行するための基礎的な知識・技術 2. 日常生活にかかわる業務	26
	2回目 10/18(金) 16:30～17:30	大会議室				25
第三回	1回目 12/11(水) 16:30～17:30	大会議室	感染管理認定看護師 医療安全ゼネラルリスク マネージャー	講義	1. 安全管理について 2. 感染管理について	24
	2回目 12/12(木) 16:30～17:30	大会議室				27

平成25年度教育実績

別紙3

対象レベル	研修名	日時	実施時間	参加人数
新人	新規採用 看護職員	4月1日	8:45～17:30	86
新人		4月2日	8:45～16:30	86
新人	ビジネスマナ	4月3日	13:00～17:30	48
新人	ビジネスマナ	4月4日	13:00～17:30	38
新人	電子カルテ	4月10日	16:00～17:30	39
新人	電子カルテ	4月11日	16:00～17:30	40
新人	宿泊研修	4月12日	14:00	79
新人		4月13日	12:00	79
新人	メンタルヘルス	4月22日	16:00～17:30	78
新人	看護技術	4月25日	16:00～17:30	79
新人	看護記録	4月30日	16:00～17:30	79
新人	看護技術	5月9日	16:00～17:30	79
新人	看護技術	5月16日	16:00～17:30	79
新人	看護技術	5月22日	16:00～17:30	78
Ⅱ	魅力的な職場づくりⅠ	5月29日	14:30～17:30	25
なし	がん看護1回目	5月31日	16:15～17:30	12
新人	メンタルヘルス	6月3日	16:00～17:30	79
2年目	メンバーシップ研修	6月12日	16:00～17:30	30
2年目	メンバーシップ研修	6月14日	16:00～17:30	31
役割	チューター研修	6月17日	15:30～17:30	40
役割	チューター研修	6月18日	15:30～17:30	39
Ⅱ	研究をしようⅠ①	6月20日	15:30～17:30	13
Ⅰ	がん看護2回目	6月21日	16:15～17:30	12
Ⅱ	研究をしようⅠ②	7月11日	15:30～17:30	14
新人	看護倫理	7月16日	16:00～17:30	79
新人	看護記録(フォーカス)	7月18日	16:00～17:30	39
新人	看護記録(フォーカス)	7月19日	16:00～17:30	39
新人	メンバーシップⅠ	7月22日	15:00～17:30	39
Ⅰ	がん看護3回目	7月29日	16:15～17:30	12
新人	メンバーシップⅠ	7月31日	15:00～17:30	39
役割	副看護師長研修	8月11日	13:00～17:00	49
なし	がん看護4回目	8月26日	16:15～17:30	12
なし	看護を語ろう	9月2日	16:00～17:30	29
なし	看護を語ろう	9月3日	16:00～17:30	33
Ⅰ	人材育成入門	9月11日	14:30～17:30	25
新人	フィジカルアセスメント	9月13日	16:00～17:30	36
Ⅰ	がん看護5回目	9月17日	16:15～17:30	12
新人	フィジカルアセスメント	9月19日	16:00～17:30	39
役割	チューター研修2	9月30日	15:30～17:30	36
役割	退院支援・退院調整	10月1日	16:00～17:30	33
役割	チューター研修2	10月2日	15:30～17:30	39
Ⅲ	魅力的な職場づくりⅡ	10月7日	14:30～17:30	20
Ⅰ	クリティカル入門	10月10・11日	一人90分	47
Ⅱ	未来デザイン	10月15日	16:00～17:30	8
Ⅰ	人材育成入門	10月24日	14:30～17:30	24
新人	メンタルヘルスⅢ	11月6日	16:30～17:30	41
新人	メンタルヘルスⅢ	11月8日	16:30～17:30	35
Ⅰ	人材育成入門	11月15日	14:30～17:30	23
Ⅱ	研究しようⅠ③	12月2日	14:30～17:30	14
新人	メンバーシップⅡ	12月3日	15:30～17:30	37
新人	メンバーシップⅡ	12月4日	15:30～17:30	38
役割	退院支援・退院調整	12月11日	16:00～17:30	32
Ⅱ	研究しようⅠ④	12月17日	14:30～17:30	14
Ⅱ	研究しようⅡ	12月17日	14:30～17:30	3
Ⅱ	ぶれないために	12月20日	14:30～17:30	19
Ⅱ	魅力的な職場Ⅰ	1月21日	16:00～17:30	23
Ⅰ	クリティカル入門	1月30・31日	一人90分	31
Ⅱ	ぶれないために	2月4日	14:30～17:30	19
新人	メンバーシップⅢ	2月12日	16:00～17:30	37
新人	メンバーシップⅢ	2月13日	16:00～17:30	36
役割	チューター研修	2月14日	16:00～17:30	38
役割	チューター研修	2月17日	16:00～17:30	36
役割	チューター準備	3月3日	13:30～17:15	25
役割	チューター準備	3月4日	8:45～12:30	22

平成25年度 他医療機関への講師派遣一覧

別紙4

月日	依頼者	役割	依頼文No	研修名
10月17日	和歌山県看護協会	講師	40	和歌山県看護協会「高齢者看護2」
5月23日	和歌山県認知症支援協会	講師	2	H25年度認知症介護実践研修(実践者研修)
5月28日	〃	講師	2	〃
5月24日	社会福祉法人真寿会	講師	3	〃 (田辺コース)
11月28日	近畿厚生局	講師	37	医療安全に関するシンポジウム
12月18日	和歌山県社会福祉協議会	講師	7	平成25年度福祉職員のための救急法講習会
10月18日	日本救急看護協会	—	39	社員総会(評議員会)、学習会
9月29日	和歌山県歯科医師会	パネリスト	5	がん看護における医科歯科連携県民公開講座
2月15日	看護協会有田地区支部	講師	57	平成25年度和歌山県看護協会有田地区支部第2回研修会
2月22日～23日	和歌山がんリハ研修会実行委員会	講師	70	平成25年度がんのリハビリテーション研修会in和歌山
12月18日	和歌山県社会福祉協議会	講師	7	平成25年度福祉職員のための救急法講習会
5月22日	紀北分院長	講師	19	院内研修「フィジカルアセスメント」(紀北分院)
10月19日	和歌山呼吸ケアセミナー	講師	32	第6回和歌山呼吸ケアセミナー
1月25日	日本小児看護学会	座長	56	2013年度日本小児看護学会地方会(近畿地区)
9月30日	和歌山県看護協会	講師	43	平成25年度和歌山県看護協会研修 「今求められるリーダーシップ あなたがチームの活性剤です」
4月20日	—	—	12	弾性ストッキング・コンダクター和歌山地区講習会
6月28日	第21回日本乳癌学会学術総会	司会	14	第21回日本乳癌学会学術総会
11月21日	日本精神科看護技術協会	—	47	日本精神科看護技術協会 和歌山県支部幹事会
12月19日	日本精神科看護技術協会	—	59	日本精神科看護技術協会 和歌山県支部幹事会
9月16日	公立那賀病院	講師	20	平成25年度公立那賀病院主催「和歌山県においてがん診療に携わる医師及び医師以外の医療従事者に対する緩和ケア研修会」
9月22日～23日	医大 病院長	講師	28	平成25年度(第41回)「和歌山県において診療に携わる医師及び医師以外の医療従事者に対する緩和ケア研修会」
10月5日	医大 腫瘍センター緩和ケア部門	講師	38	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン市民公開講座
2月15日	和歌山県がん診療連携協議会	ファシリテーター	67	第2回和歌山県緩和ケアチーム研修会
2月22日～23日	和歌山がんリハ研修会実行委員会	講師	70	平成25年度がんのリハビリテーション研修会in和歌山
6月1日	丸石製薬株式会社等	アドバイザー	23	第5回和歌山紀北地区感染管理ネットワーク研究会
11月11日	社会福祉法人同仁会	講師	50	法人研修会「感染症及び食中毒についての対策と予防」(老人福祉施設)
10月24日	県立こころの医療センター	講師	51	研修会「標準予防策とその実践」
7月6日	第58回日本集中治療医学会 近畿地方会	講師	25	第58回日本集中治療医学会近畿地方会シンポジウム(看護部門)
2月22日	医大 糖尿病地域連携グループ	講師	62	糖尿病地域連携グループ第11回勉強会
9月22日～23日	医大 病院長	講師	28	平成25年度(第41回)「和歌山県において診療に携わる医師及び医師以外の医療従事者に対する緩和ケア研修会」
10月5日	医大 腫瘍センター緩和ケア部門	講師	38	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン市民公開講座
2月22日～23日	和歌山がんリハ研修会実行委員会	講師	70	平成25年度がんのリハビリテーション研修会in和歌山
10月5日	医大 腫瘍センター緩和ケア部門	講師	38	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン市民公開講座
11月13日	日本精神科看護技術協会	—	48	日本精神科看護技術協会 教育委員会、広報委員会
12月7日	第58回日本集中治療医学会 近畿地方会	—	53	日本集中治療医学会近畿地方会看護部門評議委員作業部会
12月7日	第59回日本集中治療医学会 近畿地方会	—	54	日本集中治療医学会近畿地方会看護部門評議委員作業部会
2月22日	特定非営利活動法人JASMIN	演者、 ディスカスター	61	がん治療における分子標的薬に起因する皮膚障害の対策コンセンサス会議
3月14日	奈良県臓器バンク	講師	69	第4回奈良県臓器バンクセミナー
2月22日～23日	和歌山がんリハ研修会実行委員会	講師	70	平成25年度がんのリハビリテーション研修会in和歌山
3月7日～8日	公益財団法人エイズ予防財団	—	78	平成25年度中核拠点病院連絡調整員連絡会議

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 吉田 宗人
管理担当者氏名	事務局長 大西 範昭

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		経理課 医事課 医療情報部 薬剤部 各診療科	平成22年4月以前のカルテ等は中央病歴室において集中管理。平成22年5月より、電子カルテが稼働しており、電子媒体に保存されている。診療録の持ち出しについては診療記録管理要項で禁止されている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	経理課	
	高度の医療の提供の実績	医事課 経理課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	経理課	
	閲覧実績	医事課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経理課・薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の確項保各の号状及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全推進部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全推進部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進部	

--	--	--	--	--

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則 第一 条の 十一 第一 項各 号及 び第 九条 の二 十三 第一 項第 一号 に掲 げる 体制 の確 保の 状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 吉田 宗人	
閲覧担当者氏名	医事課長 佐々木 美夫、経理課長 太田 恭弘、 医療安全推進部長 水本 一弘	
閲覧の求めに応じる場所	医事課、経理課	
閲覧の求めに応じて開示。（一部はホームページなどに掲載）		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 安全で質の高い医療を提供するため、病院長の指揮のもとに、医療安全推進委員及びゼネラルリスクマネージャーならびにリスクマネージャーを中心に、職員総参加の下で、全職員一丸となって、附属病院における医療の安全管理対策に、積極的に取り組む。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： 平成 1 2 年 1 2 月 1 日から「医療安全推進の新制度」をスタートさせて以降、医療安全推進委員会を月 1 回開催している。 ア 医療の安全管理のための基本指針の策定に関すること イ 医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること ウ 医療安全推進のための職員研修等に関すること エ 職員総参加の医療安全推進に関すること オ その他、医療の安全確保と医療の質の向上に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 4 回
・ 研修の主な内容： 平成 2 5 年度実施状況 ・ 外部講師・内部講師による講演「いつやるか医療安全！」「医療におけるリスクマネジメント」(5 月) ・ 外部講師による講演「ヒューマンエラーとその対策—医療システムの持つ問題点と対策—」(6 月) ・ 「患者さんとのトラブルを避けるためには—コミュニケーションとクレーム対応—」(7 月・9 月) ・ 外部講師による講演「ラテックスアレルギーのリスクマネジメント」(1 1 月) ・ 外部講師による講演「知っておくと役立つ法律の知識—患者と医療者との関係をめぐって」(2 月) ・ 外部講師・内部講師による講演「ハイリスク薬とリスクマネジメント」「医療用麻薬の適正管理について」(2 月) 2 日間 ・ 「緊急コール：R R S / M E T とは 要請基準の変更」「呼吸ケアチーム実践報告 適切な呼吸管理」(3 月) ・ eラーニング「医療安全eラーニング」(9 月～3 月) ・ 基礎研修〈医療情報部共催〉「システムトラブル発生時の対応マニュアル」(4 月) ・ 基礎研修「呼吸ケアについて」(5 月) ・ 基礎研修「バルーンカテーテルの取り扱い」(5 月) ・ 基礎研修「心電図モニターのアラームと安全管理」(6 月) ・ 基礎研修「肺血栓塞栓症の予防」(6 月) ・ 基礎研修「輸液の取り扱い」(7 月) その他(研修会受講回数には加算しない学習会)〈平成 2 5 年度開催実績〉 ・ 研修医対象技能講習会「骨折・脱臼のギプス・シーネ固定」(5 月) ・ 研修医対象エコーガイド下 CVC 穿刺講習会「超音波ガイド下中心静脈穿刺の理論と手技」(3 月) ・ 研修医セミナー(4 月～3 月 2 0 回)	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全推進規程等に基づいて、院内報告制度を定め、積極的な報告の推進に努めている。レポ	

ートの迅速かつ適切な分析等に努めるとともに、医療安全推進部内で、週1回定例事例検討会を行い、医療安全推進委員会、リスクマネージャー会議を通じて、事例の共有と改善策の周知徹底を行っている。 特にアクシデント事例は、医療安全推進委員会で分析と安全管理に係る改善策等について検討協議を行うとともに、医療事故調査委員会での審議を必要とするものについては、随時、同委員会で審議している。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (3 名) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (9 名) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
・ 所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (10) 名 ・ 活動の主な内容： ア 医療安全推進委員会の庶務に関すること イ 医療事故調査委員会の庶務に関すること ウ 医療事故等に関する診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導に関すること エ 医療事故発生時の対応状況の確認と指導に関すること オ 医療事故等の報告に関すること カ 医療事故等の原因究明の確認と指導に関すること キ 医療安全に関する研修その他職員の意識向上に関する指導 ク インシデントレポート及びアクシデントレポートの受理及び分析評価 ケ 医療安全推進委員会及び医療事故調査委員会の運営に必要な事務 コ 診療録及び看護記録当の記載事項の確認と指導 サ 医療安全推進委員会で決定された改善策の実施状況、現状との整合性等についての検証に関する業務 シ 医療安全に係る連絡調整に関すること ス その他医療の安全推進に必要な業務全般	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 院内感染対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための組織に関する基本事項 3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： 1. 感染症の予防に関すること 2. 感染症予防対策の部門間調整に関すること 3. 感染症に関連する検査報告、経過、原因の追跡調査及び整理分析に関すること 4. 感染症予防対策実施の教育、計画、指導及び勧告に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 9 回
・ 研修の主な内容： 「職業感染防止について」 「小児ウイルス性疾患と小児医療センターにおける感染対策」 「結核の診断・治療と感染対策」 「当院の薬剤感受性と抗菌薬使用状況」 「感染防止対策地域連携加算にかかる相互チェックの講評」 「和歌山県のエイズの現状と対策について・中核拠点病院としての役割」 「2013年度 院内インフルエンザ講習会」 「手洗い講習会」 「感染対策の基本」	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ICTが院内ラウンドを実施し、院内各部署の感染管理状況の把握と現場への個別指導を行ない、感染対策マネジャーは、ICTと協力して部署内に感染対策に当たる。 また、細菌検査室からの細菌分離情報は、ICTに報告され、検討の上、感染予防対策委員会に報告するとともに病院内各部署に周知する。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. サーベイランスの実施（針刺し切創等血液曝露、耐性菌、医療器具関連感染、手術部位感染） 2. 感染対策マニュアルの整備 3. 院内巡回時のマニュアル遵守状況確認 4. 薬剤耐性菌感染症判定と治療確認、血流感染症調査 5. ICTwebの活用 6. 各部署への情報共有（各病棟の細菌検出状況レポート・無菌材料検出菌報告の配布等）	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
- 研修の主な内容： 1) 平成25年7月10日「輸液の取扱い」 2) 平成26年2月26日、27日「ハイリスク薬とリスクマネジメント」 「医療用麻薬の適正管理について」 3) 平成25年2月1日～3月31日 eラーニング「処方オーダーについて」	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
- 手順書の作成 (①・無) - 業務の主な内容： 業務手順チェックリストにより確認し、改善が必要と思われる業務においては当該部署と検討し、改善している。 手順書についても必要時改訂している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医薬品に係る情報の収集の整備 (①・無) - その他の改善のための方策の主な内容： 1. 医薬品・医療機器安全情報については、製薬企業MRからの情報提供のほかインターネットを利用した情報収集を積極的に行い、入手した情報についてはDIニュース等を定期的に発行し周知を図っている。 2. 定期的な情報以外に緊急を要するものについては随時情報提供を行う。 3. 情報提供は文書配布及び電子カルテシステムのポータルサイトへの掲載を行っている。 4. 緊急かつ重要な情報は院内メールを活用し、医師をはじめとする医療スタッフに周知徹底を図る	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	☒ 有 ☐ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
研修の主な内容： Eラーニングによるスライド及び試験による医療機器研修 医療安全推進部と共催での医療機器取扱い研修 各部署における人工呼吸器勉強会 各部署における補助循環装置勉強会	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
- 計画の策定 (☒ 有 ☐ 無) - 保守点検の主な内容： 経理課用度調達班と共同でメーカー保守契約の計画及び実施 臨床工学センター内にて管理している医療機器の定期点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医療機器に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ☐ 無) - その他の改善のための方策の主な内容： 院内及び院外のインシデントやアクシデントが医療安全推進部やその他ニュース等で配信された場合、臨床工学センターよりレポートとして案内する。	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構 2013年1月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ 広報誌「まんだらげ」	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 カンサーボード (腫瘍センター、肝がん、消化器がん、肺がん、乳がん、甲状腺がん)	